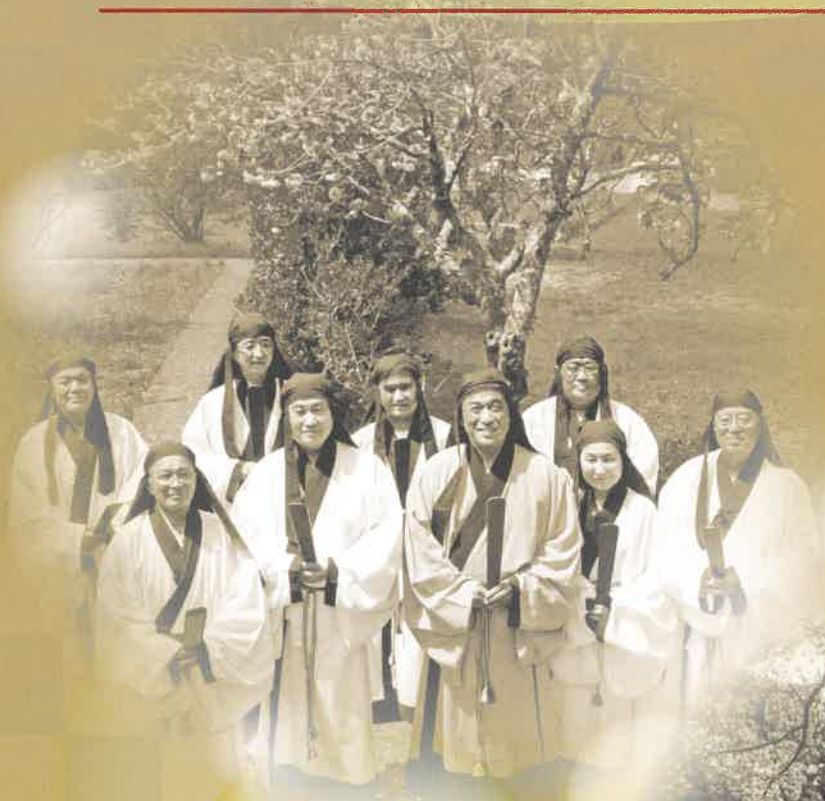
KOUSINOSATO 30th ANNIVERSARY

公益財団法人　孔子の里

30周年記念誌



KOUSI NO SATO 30th ANNIVERSARY

KOUSI NO SATO 30th ANNIVERSARY

KOUSI NO SATO 30th ANNIVERSARY

目次

いまこそ「恕」の心　～財団設立三十周年を迎えて……公益財団法人孔子の里　理事長・多久市長　横尾俊彦　1
東原庠舎、再興……多久市教育長　田原優子　2
「孔子の里」三十周年に寄せて……公益財団法人斯文会　名誉副会長　石川忠久　3
孔子の里三十周年を祝う……公益財団法人斯文会　理事長　宇野茂彦　4
「孔子の里」三十周年に寄せて……全日本漢詩連盟理事・福岡県漢詩連盟会長　三浦尚司　5
祝　辞……孔子七十七代嫡孫女　孔　德懋　6
人は孤ならず……多久市日中友好協会　理事長　尾形節子　7
特　集　石川忠久先生の即事詩……8～19
主な事業について……20～24
定款（一部抜粋）……25
財団組織図……26
歴代理事・評議員・職員名簿……27～37
あとがき……公益財団法人孔子の里　常務理事　服部政昭　38

いまこそ「恕」の心

～財団設立三十周年を迎えて

公益財団法人孔子の里理事長
多久市長　横尾俊彦

公益財団法人孔子の里は、設立三十周年を迎えました。

これまで賜りました多くの皆様のお力添えに感謝を捧げつつご挨拶申し上げます。

多久市は、一七〇八年創建の孔子廟・多久聖廟を擁する文教都市です。その歴史を踏まえ、未来に向け、新たな活性化、未来の世代に繋ぎたいという熱意がアイデアとなり、その具体化実践のひとつが財団法人孔子の里といえます。

本財団の始まりは竹下内閣の「自ら考え自ら行う地域づくり事業」（「ふるさと創生1億円事業」、一九八八～八九年）に端を発します。全国の市町村に交付された1億円のうち、多久市は7千万円を基本財産として財団を設立し、民間寄附も募り、活動が展開されました。多久出身で関西在住の実業家・曲渕喜和太氏は2億円の特別寄附をされました。

本財団は平成二年（一九九〇年）に財団法人として設立され、平成二十五年（二〇一三年）に公益財団法人へ移行し、現在に至ります。

財団定款第2章には、「重要文化財多久聖廟及びその周辺に所在する史跡等の保全とすぐれた自然条件との調和のとれた開発を推進し、快適な環境の醸成と、由緒ある文教の地に適応した学芸文化の研鑽振興を図り、もって地域の活力ある発展に寄与することを目的とする」とあります。その達成のため、本財団は創設以来三十年間、かつて国宝ともなった多久聖廟の管理運営という重要な使命と、さらに新たな気風や文化創造も図るため、多久市からの財政支援も受けて様々な事業を推進しています。

孔子ゆかりの『論語』を素材に「論語かるた」の作製と論語かるた大会の開催、全国ふるさと漢詩コンテスト、ジュニアガイド等の独自の取組みも展開しています。

二〇〇八年の多久聖廟創建三百年祭では、孔子像及び四哲像の修復寄附を広くお願いし、多くの浄財で実現できました。その取組みは「ふるさと応援寄附」の趣旨そのものともいえるものです。

多久市は孔子生誕地・中国山東省曲阜市の友好都市であり、孔家御子孫とも交誼の御縁もいただいています。孔子直系第七十七代子孫で今年百四歳の孔德懋先生は常に「恕」を説かれます。論語にある師弟問答に、弟子が生涯を貫く教えを尋ねる場面があり、孔子は「忠恕」と答えています。「この恕こそが重要です」と德懋女史は諭されます。また、孔子直系子第七十九代子孫の孔垂長先生も、「今まさに恕が世界に必要です」とも提唱されます。差別とテロで心乱れる世界を再興したいとの願いが滲みます。

戦後日本の世相の混迷、道義の頽廃を憂えた安岡正篤師も「論語」の重要性を説かれ、その高弟で論語普及会創設者である伊與田覺先生も同様の意義を説かれました。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延し、感染拡大の状況で、誹謗中傷などが憂慮されています。私も市長として、また一人の人間として、誹謗中傷や人権侵害などないよう呼びかけますが、「恕」の重要性を感じずにはおられません。

「恕」の真髄は、「己の欲せざるところ　人に施すことなかれ」の教えです。その深義を踏まえれば、「自分が人にされて嫌なことは　人にはしない」に留まらず、「自分がされて嬉しく感じることは　人にもしてさし上げることが肝要」である事は明白です。それはまさに今必要なニューノーマルにも通じます。

孔子の教えや論語章句は我が国の先覚者の指針にもなっており、その教えを源として新たな発信や創造に努めることも本財団の役割のひとつとも感じる昨今です。

さらには聖廟創建に込められた多久茂文公の「敬は一心の主宰。万世聖学の基本たり」の志も深慮し、活路を拓きたいとも感じます。

そのためにも皆様のお力添えが必要です。尚一層のご支援ご指導をお願い申し上げます。

東原庠舎、再興

多久市教育長　田原優子

三十年前、生涯学び続けることができる場として、また文教の里多久の拠り所として復活された東原庠舎。

八年前の二〇一三年には、多久市立学校を統合し小中一貫校の三校となったが、その新たなる校名に「東原庠舎」を頂戴した。「東原庠舎中央校」「東原庠舎東部校」「東原庠舎西渓校」というわけだ。「東原庠舎」が原点であり、それぞれ三校にて学びはするものの理念は一つ。そう私は理解している。

茂文公が、学問所「東原庠舎」を多久の民の為に造られてから何と三百年を経て、学校名にその名を頂戴したのだから、その意義は大きい。そのことを噛みしめて、茂文公の思い描いた学問所を現代に再興したい。色褪せることのない当時の理念を、今一度心に刻みたい。時、あたかも総仕上げ。小中一貫校として九年目を迎えるタイミングとなった。つまり、小中一貫校となった四月に、一年生として入学した児童が最高学年の九年生となる年となった。

―敬は一心の主宰　万事の根本にして
而して万世聖学の基本たり―

一方、孔子の里は、東原庠舎を拠点として、市内の人材育成の中心となってきた。平成十一年は通学合宿を開始し、小学生の集団生活の訓練の場となった。平成十三年は生徒会交流会を開始。中学生が互いの生徒会活動を確認しあい、高校でも情報交換し、成人式実行委員会では顔馴染みとしてタイムラグなく活動することにつながっている。平成十六年は論語かるた大会を開始。多久では、幼子もそらんじる論語だが、その礎となった。

また、市外、県外へ多久の知名度を大きく上げてきた。その一つである孔子の里ジュニアガイドは、平成十七年に開始。ガイドを受けて感激したという多くの礼状は何事にも代えがたい財産となった。

文化の拠点として、書道展覧会、スケッチ会、コンサートなどを開催し、発信にも力を注いだ。

全国にその名を行き渡らせている全国漢詩コンテストは、遠くは北海道からも応募していただく。聖廟にはその優秀作品が石碑となって歴史を語っている。

東原庠舎で、教職を目指す学生たちを合宿させていただく大学の指導者は、静かな環境で集中できると絶賛していただいて継続した利用をしていただいている。

私ごとだが、曲阜市との友好交流都市の交流団の引率者として、十名程の代表生徒と共に事前合宿をした。初日の中国語講座は、趙勇さんや江舟さんの中国語が全く聞き取れなかったが、翌朝に聞こえるようになった感激が東原庠舎に来ると思い出される。その時の生徒たちが、既に保護者となっている。三十年の功績は大きい。

さて、新たな十年へ。東原庠舎と東原庠舎三校が連携し、学び続けられる「文教の里」を創り上げ、東原庠舎再興につなぎたいと願う。

「孔子の里」三十周年に寄せて

公益財団法人斯文会　名誉副会長　石　川　忠　久

多久の「孔子の里」が、ここに目出たく三十周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

私は、東京の「湯島聖堂」で、長年に亘り孔子を守り、文化の伝統を継承することに力を注いでまいりましたが、ここに、遥か九州の多久の地で、連綿と「伝統継承」の旗を高く掲げられている皆様のご様子を思い、深く敬意を表するものであります。

ことに、平成十年より新たに、横尾俊彦市長によって始められた「全国ふるさと漢詩コンテスト」には、私はその初めから招かれ、応募の作品の審査に携わってまいりました。

そのコンテストでは、選ばれた優秀作品は陶板に焼き、それを大きな自然石に嵌めこんで、東原庠舎の周辺に並べる栄誉が授けられます。他には例を見ない〝文雅〟な行事で、私もそれに携わるのを嬉しく思っております。

終わりに蕪詩一首を添えて、お祝いの言葉といたします。

慶賀「孔子之里」三十周年

当時賢主発高風
郁々伝来存此中
功業相承三十載
詩碑今仰積年功

当時　賢主高風を発(ひら)き
郁々伝来して　此の中に存す
功業相い承(う)く　三十載
詩碑　今仰ぐ　積年の功

孔子の里三十周年を祝う

公益財団法人斯文会　理事長　宇野茂彦

このたび孔子の里の創立以来三十周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

東京の湯島聖堂はかつての幕府の昌平坂学問所ですが、ここを維持管理している斯文会は、おなじく孔子廟を維持する御縁により、貴会、孔子の里との親交をたまわっております。先の理事長の石川忠久が貴会の主催される漢詩コンクールの選者として毎年お招きいただき、二十年余を経ました。この御高誼を洵に有難く御礼申し上げます。

さて、初めて多久に私が参ったのは、昭和四十年代の終りごろに九州大学で行われた学会の際、学会の斡旋で会員有志四十人くらいだったか、バスを仕立てて多久の釈菜を見学したときです。

市長さんが祭主となり、役所の方々十人ほどだったか、独特の白地に黒襟の服をまとい、黒の頭巾をかぶり、手には笏をもち、履き物は木靴だったように思います。そして大勢の生徒さんたちによる、たしか雉の羽を手にしていたか、八佾の舞でしょうか、舞楽が行われました。非常に興味深く拝見したものです。

以来、約五十年ぶりに、今般再び多久に参ることが出来ました。多久の聖堂は変わることなく、荘厳な姿で有りました。尤も、お話によると、嘗て拝見したときは銅葺きだったが、今は創建当時の通り瓦葺きに戻したそうですが、あの熊本城の石垣が崩れた大震災のときも、びくともしなかったとのこと。

釈菜も変わらず市長さんが祭主となって挙行されていることを知り、まことに感慨に堪えません。市を挙げてのこの行事であることに、多久市のなみなみならぬ伝統の尊重、そして教育への厚い思いを感じる次第です。

私は子供のとき家が近所にあったので明治神宮によく遊びに行きました。そして明治天皇を深く尊敬したのです。その神宮の神域の森は人の手によって造られたものでして、田澤義鋪（たざわよしはる）や下村湖人たちが全国の青年団を率いて神宮の植樹の運動を展開したのであります。いま、神宮のそれは鬱乎たる森に育っています。その森を造った田澤と下村はいずれも肥前佐賀の出身で、このような運動は佐賀の精神の発露であったろうかと思います。

多久は佐賀県の中央に位置して、巍々たる孔子聖廟が鍋島藩の昔より、この地の象徴として鎮座している、そして、聖廟を尊崇する伝統が人々の気風ともなっているのではないかと思わずにはいられません。

下村は「次郎物語」で有名ですが、「論語物語」の著作もあり、今回、私は漢詩コンクールにお招きいただき、論語を物語として読むお話を致したのですが、下村湖人に「論語物語」の著作のあることをご紹介するのを忘れていました。

孔子の里が、論語の正しい理解を促進し普及し、その教えを実践に活かす普遍的倫理として読む良き伝統を維持されて、多久にとどまらず肥前に、そして全国にひろがり益々の発展をされるよう期待します。

「孔子の里」三十周年に寄せて

全日本漢詩連盟理事
福岡県漢詩連盟会長
周洋　三浦尚司

財団法人孔子の里、創立三十周年を心からお祝い申し上げます。

佐賀県内の史蹟等を訪ねますと、依然として数多くの文化遺産と美しい日本の原風景が残されていることに驚かされます。とくに多久市においては貴重な文化財が大切に守られており、伝統の葉隠精神が根強く継承されていることを感じます。

私は国の重要無形文化財、多久聖廟の春季釋菜を数十年前に初めて訪ねた時の感動を今もって忘れることができません。

多久聖廟内では儒教の厳然なる釋菜が挙行され、その廟前の広場には、多久市内の幼稚園の園児から小学校、中学校の生徒たちの団体が声も立てずにおとなしく坐り、次々に入れ替わって釋菜の儀式を見聞していたことです。

『論語』の中に「信じて古(いにしえ)を好む」とありますが、諸橋轍次先生は「古い聖賢の教えに疑いをはさまず、古人の道を好み求めて、これを尊び、今日の自分を深く反省し、これを学ぶ者の心得とする。」（『中国古典名言事典』）と解説しています。

まさに教育者がこどもたちに釋菜を通して伝統の大切さを示しているように思いました。

献官となった横尾多久市長を中心に教育長、学校長等の教育関係者や市民の皆様が一丸となって人材の育成に邁進されていることを強く感じたのでした。

多久聖廟の釋菜は年々盛大になりましたが、地元の方々によるお茶の接待等は心温まるものがあります。

とくに秋季釋菜は県内外から訪れる多くの参詣者を迎えて、腰鼓や釋菜の舞、獅子舞や献吟、幼児太鼓、花棒舞など数々のイベントが披露されて、訪れた皆さんを楽しませています。環境面では、多久市長を初めとして孔子の里の関係者の皆様のご努力によって、年々、見違えるように施設が整備されて美しい景観が保持されていることに深い敬意を表する次第です。

春秋の釋菜に献詩をするようになって、いつしか数十年が過ぎました。北九州市では一般市民を対象にした文化講座が毎年開催されています。私が九州国際大学に勤務していた当時、黒崎駅に近接するコムシティに大学のサテライトスタジオが開設されました。

以来、毎年、初心者向けの漢詩講座の講師をしています。全国では国民文化祭漢詩大会をはじめ各地で漢詩大会が開催され、多久市の孔子の里においても全国ふるさと漢詩コンテストが開催されています。

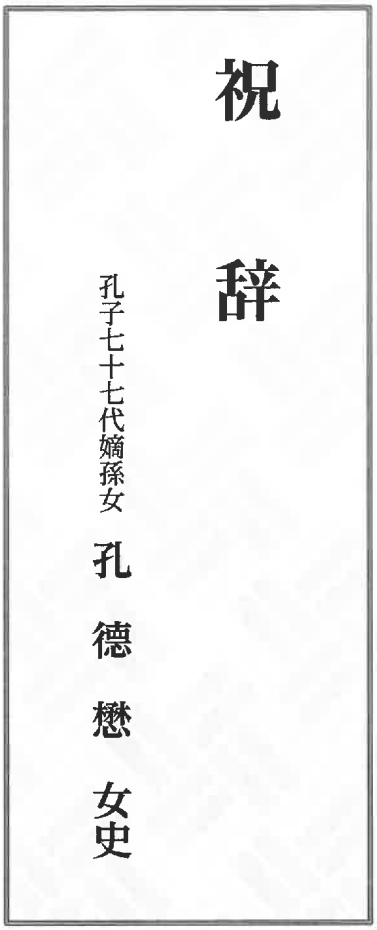
しかし、私が最も力を入れているのは三百年以上も継続している多久聖廟の春秋釋菜への献詩です。これほど厳粛なる釋菜を執行している聖廟は日本国中では数えるほどしかないと思っています。その儀典に欠かせない献詩の重みを感じて欲しいというのが私の想いです。日本の漢詩界は高齢化が一段と進んでいますが、高校生、大学生をはじめ壮年層の愛好者も生まれています。彼等をねばり強く育成しながら献詩の伝統継承に役立てたいと思っています。江戸時代の多久茂文公以来、三百年以上も培われた儒教精神を後世に残していく活動を推進している財団法人孔子の里の活動の意義は極めて大きなものがあります。今後、益々のご発展を祈念して、蕪詩一首を添え、お祝いの微意と致します。

賀孔子之里三十周年
多久春秋孔子郷
古来儒教拝恩光
厳然釋菜繹傳統
賢主丹心永慕香

孔子の里三十周年を賀す
多久の春秋　孔子の郷
古来儒教の恩光を拝す
厳然たる釋菜　伝統を繹ぎ
賢主の丹心　永慕して香る

孔德懋女史は、孔子七十七代の孫、孔德成氏の姉で平成元年（1989年）12月に曲阜市友好市民訪日団とともに多久を来訪。多久聖廟の側にある碑には自筆の論語句「徳不孤必有鄰（徳は孤ならず必ず隣あり）」（里仁第四）が刻まれています。

左：孔　德懋さん　　右：尾形　節子さん



祝

辞

孔子七十七代嫡孫女

孔　德　懋　女史

祝　　辞

この度は、公益財団法人孔子の里（日本国多久市）の設立三十周年（三十而立）を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。（論語に“三十にして立つ”とあり、三十歳を迎えて、自己の立場を確立し、自立したことの意）

多久市では毎年春と秋に釈菜を執り行い、孔子様の“仁、義、礼、智、信”の理念を広く市民に示している。そのことは、多久市民の倫理、道徳、教養を育むことに寄与なされており、孔子の子孫として、貴市及び孔子の里、多久市民のことをとても誇りに思います。

また、多久市役所で発行している封筒や名刺など、あらゆるところに“孔子の里”の文字が記載されていることにとても感激しています。

多久聖廟（孔子廟）は日本の国重要文化財であり、いわば多久市の顔です。

国際儒学界においては、日本の多久市を知らずとも“孔子の里”は皆が知っているのです。

横尾俊彦先生は市長及び孔子の里理事長を務められ、“孔子の里”として海外との友好のかけ橋となられており、その力を存分に発揮しておられます。

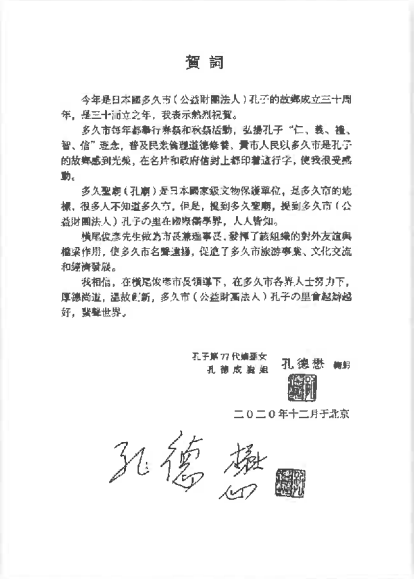
その活躍もあって、多久市の名は中国に限らず、遠く海外にも伝わり、長年実施してきた中国の旅事業を始め、双方の文化交流を行ってきたことが、多久市の発展をさらに促進したことと思います。

横尾俊彦市長及び理事長の強いリーダーシップの下、多久市の各団体が共に力をあわせ、“厚徳尚道”“温故創新”をスローガンとし、多久市及び孔子の里の益々の発展と、その名を世界に馳せしめることを祈念して祝辞とさせていただきます。

孔子第77代嫡孫女　　孔德懋　鞠躬
孔德成の姉

二〇二〇年十二月　　北京より

（翻訳　趙勇）



賀詞

今年是日本國多久市（公益財團法人）孔子的故鄉成立三十周年，是三十而立之年，我表示熱烈祝賀。

多久市每年都舉行釋菜和祝福活動，弘揚孔子“仁、義、禮、智、信”理念，普及民衆倫理道德修養，貴市人民以多久市是孔子的故鄉感到光榮，在名片和政府信封上都印著這行字，使我很受感動。

多久聖廟（孔廟）是日本國家級文物保護單位，是多久市的地標，很多人不知道多久市，但是，提到多久聖廟，提到多久市（公益財團法人）孔子的里在國際儒學界，人人皆知。

橫尾俊彥先生做為市長兼孔子里理事長，發揮了該組織的對外友誼與橋梁作用，使多久市名聲遠揚，促進了多久市旅游事業、文化交流和經濟發展。

我相信，在橫尾俊彥市長領導下，在多久市各界人士努力下，厚德尚道，溫故創新，多久市（公益財團法人）孔子的里會越辦越好，聲譽世界。

孔子第77代嫡孫女
孔德成姐姐　孔德懋　鞠躬

二〇二〇年十二月于北京

孔德懋

人は孤ならず

多久市日中友好協会　理事長　尾形節子

私にとって人生の三分の一、退職後三十余年の月日が、趙勇、王艶夫妻と、中国北京にお住まいの孔子直系七十七代孔德懋女史、柯达氏との縁で結ばれ「孔子の里」三十年の歩みとも繋がっていたことに、深い感銘を覚える。

昭和五十八年八月、多久市に住みついて数年の中国、韓国、台湾等の引揚者たちが、多久に建立されておよそ三百年の孔子廟を守り続けて来た地元の人々の心意気と、今後の平和への願いを込めて多久日中友好協会を設立された。東洋諸国への贖罪の気持ちを持つ多くの人々がその呼びかけに応じた。私もその一人であった。

このような状況の中、平成三年に趙勇一家が小三の男の子を伴い、中国長春からはるばる移住して来た。人々の尽力で住居と勤務先が決まった。中国音楽講師という身分である。

その揚琴演奏者としての活動　まず日本の童謡、小学唱歌等から曲を選び、揚琴用に編曲し、自分の楽器で弾いて慣れ親しむ努力。中国で作曲コンクールに優勝した功績もここでは問題外。彼は不安と期待で一杯だったと思う。日が経つにつれ、揚琴の切れ味のいい音色が地元の人々の心に沁みていく。

時が進み林口彰氏の司会と組んだ演奏会が県内外、果ては東京の佐賀県人会で開かれ好評を受ける。私も在京の友人たちと共に参加した。

現在は隣県に通い、定期的に音楽活動を続けているが、多久では私達の力及ばず小中学校や地区の集まりで、揚琴の音色を披露する機会がある程度。その編曲による「荒城の月」は彼我の民族性の違いが出て秀逸だ。

釈菜に「腰鼓、獅子舞、釈菜の舞」を加えた　趙勇氏の紹介で、釈菜の儀式のあとに、腰鼓、獅子舞、釈菜の舞など中国の古舞を取り入れた。いずれも市の賛同協力で、曲阜や長春の伝統技術者を一定期間招じ、多久の然るべき人々に伝授させ、その人々が地元の生徒児童に技術継承をさせた。現在もイベントとして屋外で催され外来の人々をも楽しませている。戦後途絶えていた「参列生徒の唱歌」も、彼が苦労して採譜し、復活した。

日中友好会員　中国への草の根友好旅行団（五年に一度は〝市民の翼〟として実施）の企画、添乗、通訳等、すべてをとり仕切る。一般旅行者は自由に毎年の旅行企画に参加し、中国の文化遺産や民衆と触れ合い、平和の心を培う。趙勇さんだから安心と団員は増加していった。一方、本来は中国琵琶奏者である王艶さんは、中華料理の免許をとり店長として毎日励んでいる。私達の大事な仲間である。

北京の孔德懋女史、柯达氏のこと　平成元年に多久にお見えになり、三年には親しくあちこちをご案内した。大きな人柄を感じた。

人間は会って、会して話すことで心が通じるとつくづく思うのは、中国へ行く度に出来るだけ団員との会食にお招きすることで、「妹々」と言われるようになったからだ。平成十一年においでの時、先輩二人と共に私の家にお招きして、二階から稲田をお見せした所、「すばらしい」「ここに泊まりたい」とおっしゃった。その二年後に「多久日中友好史」一冊目を発行し、先輩の発案で德懋さんの揮毫を石碑する事となり、「論語の中からお好きな言葉を！」とお頼みした。翌年七月に北京を訪れ、折られた和紙を息子で秘書役の柯达さんが一ひらき、二ひらき。出てきた文字は私が望む〝德不孤必有鄰〟（德は孤ならず必ず隣あり）であった。「心が通じた」と信じている。歓びの宴会での会話は、趙勇さんが通訳をあべこべにする等で大いに会話が弾んだ。あれから十五年以上経っている。

德懋さんは去年の秋、満百四歳になられた。もう一度お会いしたいと思って、コロナ禍の下を過ごしている。

魯迅は言う「人が歩けば道ができる」

光太郎は「僕の前に道はない　僕の後ろに道はできる」

さて私の後ろにはよろよろ道が出来たであろうか。

二組の中国人は孔子の里に「日中友好を基にした新しい道を拓いて下さった」と思うのだ。

特集

石川忠久先生の即事詩

※即事詩…即興で詠ずる詩

平成十年（一九九八年）に多久市主導で漢詩大会が開かれ、それを財団が受け継ぐ形でこの漢詩コンテストは始まりました。

湯島聖堂から石川忠久先生をお招きし、その度に即事詩を色紙に揮毫いただいてきました。

この度、石川忠久先生が公益財団法人斯文会の名誉副会長になられ、公益財団法人孔子の里が三十周年を迎えるこの折に、感謝の気持ちを表すとともに、これまで未発表だった作品を含め、一挙にご紹介いたします。

公益財団法人斯文会名誉副会長

石川忠久先生

東京都出身。東京大学文学部中国文学科を卒業後、中国文学者としての道を歩まれ、「陶淵明研究」で文学博士を取得。桜美林大学文学部教授・文化部長、二松学舎大学教授、同大学理事長・学長を歴任。ＮＨＫの漢詩シリーズ「漢詩紀行」でも知られ、平成二十年（二〇〇八年）に瑞宝中綬章を受章。

日本中国学会理事・理事長・顧問、全国漢文教育学会会長、斯文会理事長、六朝学術学会会長などの要職も歴任。全日本漢詩連盟設立に尽力し、初代会長に就任。

多久市で開催されている『全国ふるさと漢詩コンテスト』において、事業開始当初から審査委員長を務められる。数多くの著書も出版されており、現在も湯島聖堂などでご活躍なされている。

文章千古豈空言東
海清規此尚存庠舍献
詩三百載年〻釋菜
道愈敦　石川忠久謹作
平成十一年季秋
東原庠舍三百年有感而作

東原庠舍三百年　感有りて作る

文章千古　豈に空言ならん
東海の清規　此に尚お存す
庠舍に詩を献ずること　三百載
年々の釈菜　道　逾いよ敦し

[語釈（『桃源佳境』参照）]
◎文章千古＝杜甫の「偶題」に「文章千古の事」とある。
◎空言＝うそ、虚言。　◎東海＝日本をいう。　◎清規＝清く正しい法度。
◎庠舍＝学問所。ここは多久邑校東原庠舍。
[押韻（参考）]
・平声元韻（言、存、敦）
[参照（参考）]
・石川忠久古稀記念漢詩選集『桃源佳境』（東方書店、二〇〇一年四月刊）四五ページ

[解題（参考）]
◆平成十一年（一九九九年）十月二十四日（『桃源佳境』参照）
第二回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆東原庠舍創建三〇〇年に思いを馳せて詠んだもの。
◆訓読は『桃源佳境』掲載のものを参考。

滿堂盡是風騷客清
興更加琴與簫只恨
絃歌宰不在庠前楷
樹雨蕭〻　庚辰秋月
多久詩會偶成　岳堂散人

多久詩会偶成

滿堂　尽く是れ　風騒の客
清興　更に加う　琴と簫と
只だ恨む　絃歌の宰　不在なるを
庠前の楷樹　雨蕭々

[語釈（参考）]
◎風騒客＝詩歌などの風流な遊びを好む客。　◎簫＝ふえ。
◎絃歌宰＝ここでは横尾多久市長をいう。
もと『論語』陽貨第十七にある子游の逸話に基づくもので「文化的な社会教育に熱心な土地の長」のこと。
◎蕭蕭＝雨音の寂しいさま。
[押韻（参考）]
・平声蕭韻（簫、蕭）、第一句（起句）の「客」は踏み落とし。
[参照（参考）]
・石川忠久古稀記念漢詩選集『桃源佳境』（二〇〇一年四月九日、東方書店発行）一七七ページ。

[解題（参考）]
◆平成十二年（二〇〇〇年）十月二十八日
第三回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆第三句は同コンテストの表彰式に横尾俊彦多久市長が不在であったことを残念に思われ、そのことを詠まれたもの。

夫子廟前瀟洒秋説
詩四度訪丹邱今年
喜見多佳句雨裡表
彰碑石頭　幸之季子烈
岳堂散人

第四回漢詩大会除幕式偶成

第四回漢詩大会除幕式偶成

夫子廟前　瀟洒の秋
詩を説かんとして　四度　丹邱を訪ぬ
今年　喜び見る　佳句多きを
雨裡の表彰　碑石の頭

[語釈（参考）]
◎夫子廟＝夫子は孔子に対する尊称。夫子廟はここでは多久聖廟のこと。
◎瀟洒＝さっぱりして清らかなようす。
◎丹邱＝多久の雅称。　◎雨裡＝雨の降る中。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（秋、邱、頭）。

[解題（参考）]
◆平成十三年（二〇〇一年）十月二十日
第四回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。

昌平遺響播蜻洲賢主
創黌三百秋今日猶餘
獻詩典儀厳名教在
丹邱　幸之季烈　石川忠久

多久聖廟釋菜恭賦

多久聖廟釋菜恭賦

昌平の遺響　蜻洲に播す
賢主　黌を創むる　三百秋
今日　猶お余す　献詩の典
儼然たり　名教　丹邱に在り

[語釈（参考）]
◎昌平＝地名。孔子が生まれたところ。（現在の山東省曲阜県の南東）
ここでは「孔子の教え」や「孔子の学問」のことを指す。
◎遺響＝先人の遺した教え、心のこもった響き。　◎蜻洲＝日本の別称。
◎播＝広く伝わる。　◎賢主＝多久茂文公をいう。
◎創黌＝多久茂文公が元禄十二年、東原庠舎を設立したことをいう。
◎三百秋＝三百年。　◎猶余＝今もなお続く。　◎典＝儀式、礼。
◎儼然＝おごそかなさま。きちんと整ったさま。
◎名教＝儒教の教え。すぐれた教え。　◎丹邱＝多久の雅称。
[解題（参考）]
◆平成十三年（二〇〇一年）十月
多久聖廟平成十三年度「秋季釈菜」における献詩。
◆訓読は『二松詩文』掲載のものを参考。

[押韻（参考）]
・平声尤韻（洲、秋、邱）
[参照（参考）]
・『二松詩文』第九八号（平成十四年（二〇〇二年）一月十日、二松詩文会発行）。

郭外皆山小天地神洲
正氣此凝成東原庠
舍儼然在今識賢侯
先明　壬午孟冬　岳堂
第五回漢詩大会偶詠
先下有見

第五回漢詩大会偶詠

郭外皆山　小天地
神洲の正気　此に凝りて成る
東原庠舍　儼然として在り
今識る　賢侯　先見の明

[語釈（参考）]
◎郭外＝城壁のそと（『江都晴景』自注）。
◎皆山＝宋・欧陽脩の「醉翁亭記」に「滁を環りて皆山なり」とある。
◎小天地＝小さい一つの世界。別天地。　◎神洲＝日本国の雅称。
◎賢侯＝多久茂文公をいう。
[参照（参考）]
・『二松詩文』第一〇二号（二松詩文会、平成十五年（二〇〇三年）一月十日発行）。
・石川忠久八秩記念漢詩選集『江都晴景』（研文出版、平成二十四年（二〇一二年）四月刊）九五ページ。
[押韻（参考）]
・平声庚韻（成、明）。第一句（起句）の「地」は踏み落とし。

[解題（参考）]
◆平成十四年（二〇〇二年）十一月十六日
第五回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆訓読は発行時期の遅い『江都晴景』掲載のものを参考。語釈の一部は、『二松詩文』及び『江都晴景』の自注を参考。

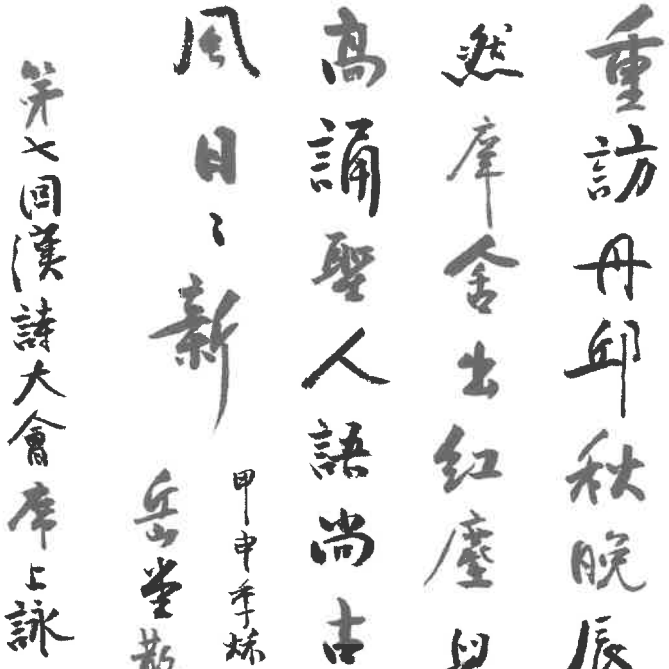
開興郷學賴賢侯
涵育薫陶三百秋
東魯西秦今日會
共論文教在丹邱
岳堂
第三回藩校會議在多久席上詠

第三回藩校會議　多久に在りて席上に詠ず

郷学を開き興すは賢侯に頼る
涵育　薫陶　三百秋
東魯西秦　今日の会
共に文教を論じて　丹邱に在り

[語釈（参考）]
◎藩校會議＝全国藩校サミット。
◎郷学＝郷校に同じ。地方・地域の学校。ここでは東原庠舎。
◎賢侯＝多久茂文公。　◎涵育＝教化する、恵みを施す。
◎薫陶＝徳の力で人を教化・訓育すること。　◎三百秋＝三百年。
◎東魯西秦＝（日本）全国のこと。
中国・春秋時代の東の魯国からも西の秦国からも、になぞらえ「国中から（藩校サミットに集まってきて）」の意味。
◎丹邱＝多久の雅称。

[押韻（参考）]
・平声尤韻（侯、秋、邱）。
[解題（参考）]
◆平成十六年（二〇〇四年）六月二十六日
第三回「全国藩校サミット in 多久」における作。

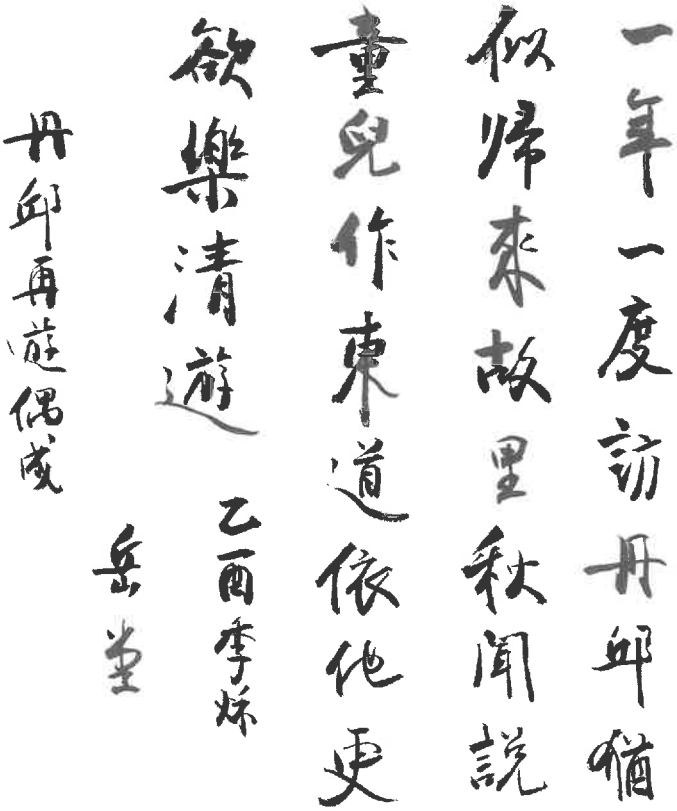


第七回漢詩大会　席上の詠

重ねて丹邱を訪ぬ　秋晩の辰
儼然たる庠舎　紅塵を出ず
児童　高く誦う　聖人の語
尚古の遺風　日々新たなり

[語釈（参考）]
◎丹邱＝多久の雅称。　◎秋晩＝秋の深い季節。晩秋。
◎儼然＝おごそかなさま。きちんと整ったさま。
◎紅塵＝俗世間。　◎出紅塵＝煩わしい俗世間を離れる。
◎高誦聖人語＝声高く論語の素読を行う。
◎尚古＝昔の文物・制度を尊ぶ。　◎遺風＝昔からの風習。
[押韻（参考）]
・平声真韻（辰、塵、新）。

[解題（参考）]
◆平成十六年（二〇〇四年）十一月六日
第七回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。

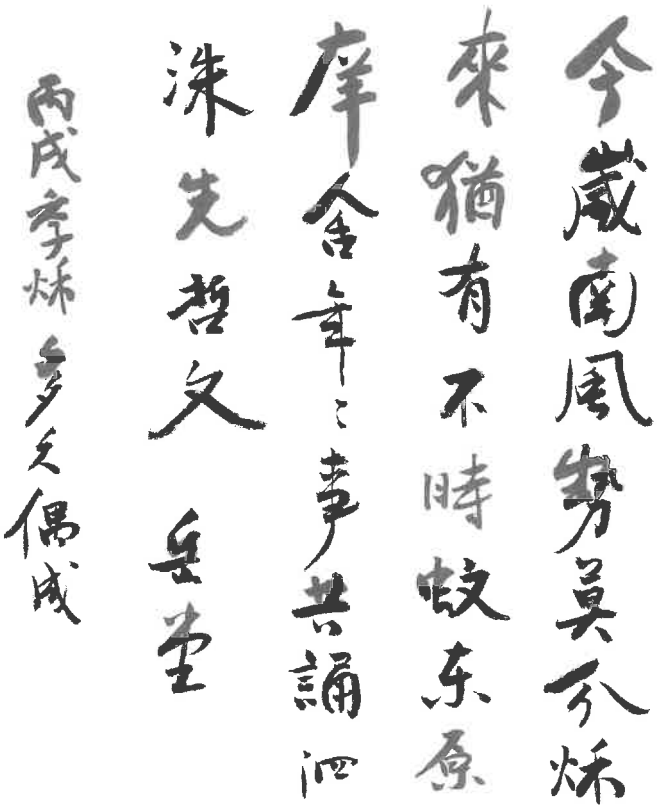


丹邱再遊偶成

一年一度　丹邱を訪ぬ
猶お似たり　故里の秋に帰り来るに
聞説く　童児　東道を作すと
他に依りて　更に清遊を楽しまんと欲す

[語釈（参考）]
◎丹邱＝多久の雅称。
◎聞説＝聞くところによれば。聞けば～だそうだ。
◎東道＝客に対する案内や接待。
◎他＝それ、あの。ここでは童児の東道、つまり児童による案内や接待を指す。
◎清遊＝世俗を離れた清らかな遊び。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（邱、秋、遊）。

[解題（参考）]
◆平成十七年（二〇〇五年）十一月五日
第八回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。

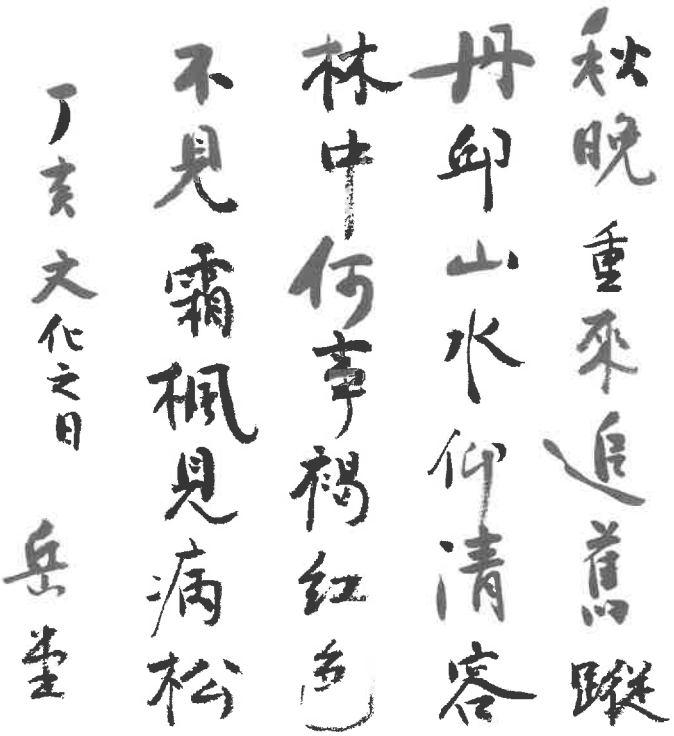


丙戌季秋多久偶成

今歳の南風　勢い分莫く
秋来れども　猶お有り　不時の蚊
東原庠舎　年々の事
共に誦う　泗洙　先哲の文

[語釈（参考）]
◎南風＝夏の南からの風。この風は草木を育むことから、君主の情け深い政治や父母の心温まる養育など本来は良いものの象徴とされる。
◎莫分＝際限なく。分をわきまえず。本来のことを逸脱して。
◎今歳南風勢莫分＝本来、南風は草木を育むなどよいものであるが、この年はもう十一月だというのに時季外れの、いわば「分をわきまえない」南風が「際限なく」吹いたことを言ったもの。
◎不時蚊＝時期はずれの蚊。
◎泗洙＝泗水と洙水。ともに孔子の故郷である魯の地に流れている川であることから泗洙は「孔子の学」を指す。
◎先哲文＝昔の賢い人の教えや仁徳。ここでは泗洙先哲文と言っていることから、孔子の教え、つまり論語をいう。

[解題（参考）]
◆平成十八年（二〇〇六年）十一月四日
第九回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
[押韻（参考）]
・平声文韻（分、蚊、文）。

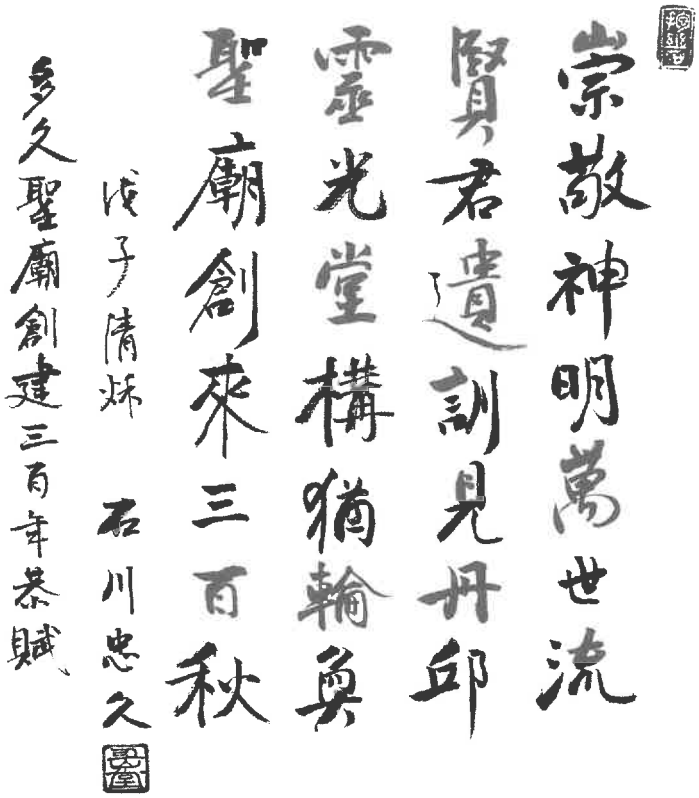


（無題）

秋晩　重ねて来りて旧蹤を追う
丹邱の山水　清容を仰ぐ
林中何事ぞ　褐紅色
霜楓を見ず　病松を見る

[語釈（参考）]
◎秋晩＝秋深い時期、晩秋に同じ。
◎旧蹤＝以前に訪れた土地。多久市のこと。
◎丹邱＝多久の雅称。　◎清容＝清らかな姿・景色。
◎何事＝一体どうしたことだろう。なんということだろう。
◎褐紅色＝茶色がかった赤色。
◎霜楓＝霜にあたって鮮やかな赤に変色したかえで。
[押韻（参考）]
・平声冬韻（蹤、容、松）。

[解題（参考）]
◆平成十九年（二〇〇七年）十一月三日
第十回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
[参照（参考）]
・『二松詩文』第一二二号（二松詩文会、平成二十年（二〇〇八年）一月十日発行）。

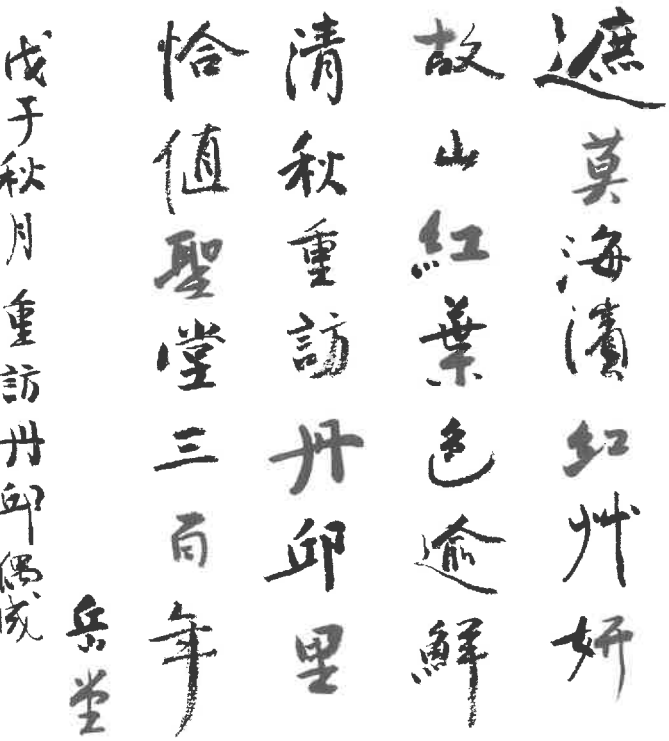


多久聖廟創建三百年恭賦

神明を崇敬して　万世に流る
賢君の遺訓　丹邱に見る
霊光の堂構　猶お輪奐たり
聖廟　創め来って三百秋

[語釈（参考）]（『斯文』および『江都晴景』の自注参照）
◎賢君＝多久茂文公をいう。
◎遺訓＝亡くなった後に残された教え。　◎丹邱＝多久の雅称。
◎霊光＝魯の霊光殿。古い時代の立派な建築を伝える宮殿。多久聖廟にたとえた。
◎輪奐＝建物などが壮麗なさま。
[参照（参考）]
・『二松詩文』第一二五号（二松詩文会、平成二十年（二〇〇八年）十月十日発行）。
・『斯文』平成二十年度第一一八号（斯文会、平成二十一年六月十三日発行）二〇八ページ。
・石川忠久八秩記念漢詩選集『江都晴景』（研文出版、平成二十四年四月発行）一九二ページ。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（猷、邱、秋）。

[解題（参考）]
◆平成二十年（二〇〇八年）十月二十六日
多久聖廟創建三百年祭における作。
◆訓読は多久聖廟設置の石碑上のものを参考。

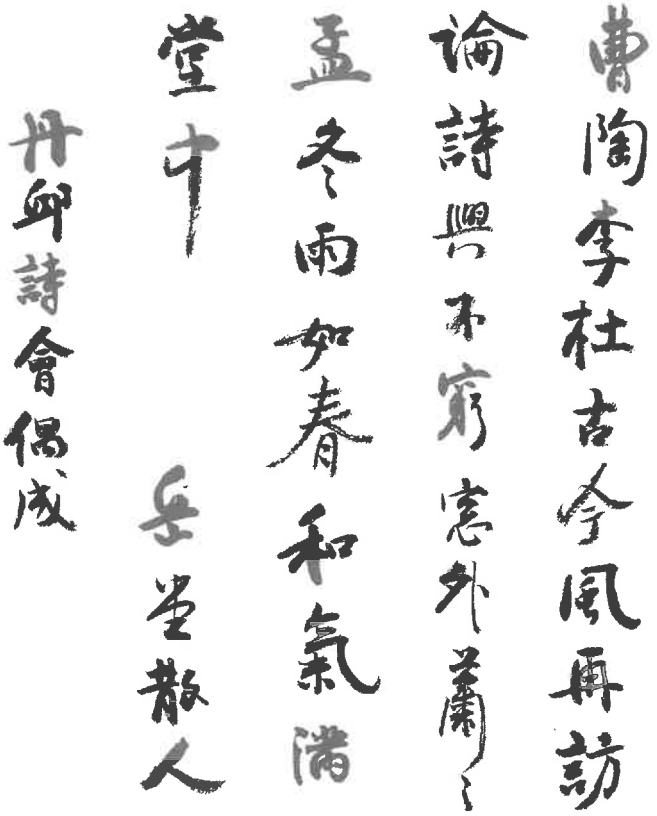


戊子秋月　重ねて丹邱を訪ぬ　偶成

遮莫　海浜の紅草妍なるを
故山の紅葉　色　逾いよ鮮かなり
清秋　重ねて訪ぬ　丹邱の里
恰も値う　聖堂三百年

[語釈（参考）]
◎丹邱＝多久の雅称。
◎遮莫＝（後述のことなど）どうでもよい。問題としない。関係ない。
◎海浜紅草＝有明海沿岸でみられるシチメンソウのこと。
◎故山＝本来、故郷の山野のこと。多久聖廟の周りの里山などを指す。
◎恰＝ちょうど、ぴったり。　◎値＝遇う。出会う。
[押韻（参考）]
・平声先韻（妍、鮮、年）。

[解題（参考）]
◆平成二十年（二〇〇八年）十一月十五日
第十一回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆これに先立つ同年十月二十六日に、多久聖廟創建三百年祭のために多久聖廟を訪れていることから、「重ねて訪ぬ」と題した。
◆「シチメンソウ」が美しくはあったものの、多久の紅葉の方が鮮やかで綺麗だ、というのが本詩の主旨。

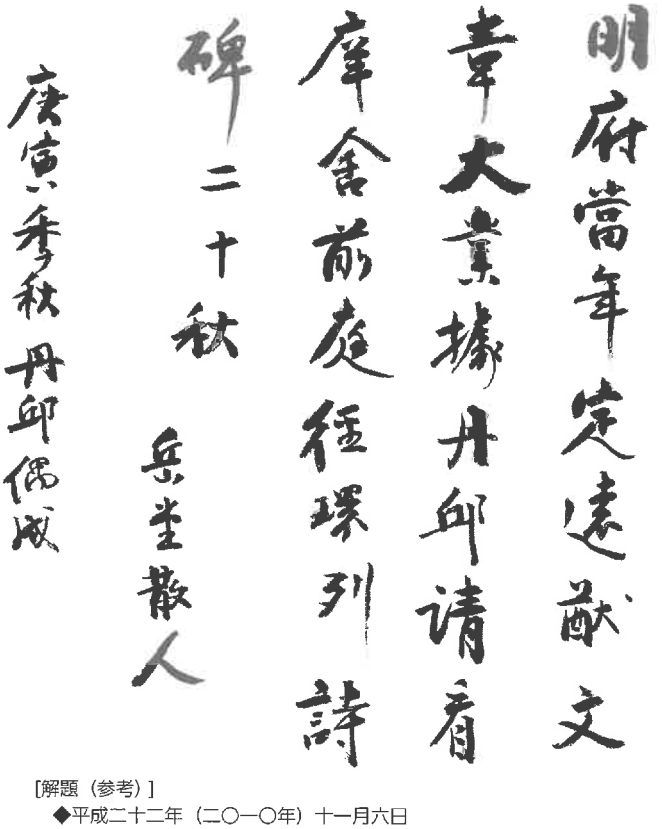


丹邱詩会　偶成

曹陶李杜　古今の風
再び訪れ　詩を論ずれば　興　窮まらず
窓外蕭々　孟冬の雨
春の如き和気　堂中に満つ

[語釈（参考）]
◎丹邱＝多久の雅称。
◎曹陶李杜＝曹植、陶淵明、李白、杜甫。三国から唐にかけての代表的詩人。
◎古今風＝（曹陶李杜の活躍した）昔から今に続く詩文の趣き。
◎興＝おもむき。おもしろみ。　◎蕭々＝雨音のさびしいさま。
◎孟冬＝冬の初め。初冬。　◎和気＝和らいだ気持ち。のどかな陽気。
[押韻（参考）]
・平声東韻（風、窮、中）。

[解題（参考）]
◆平成二十一年（二〇〇九年）十一月七日
第十二回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。

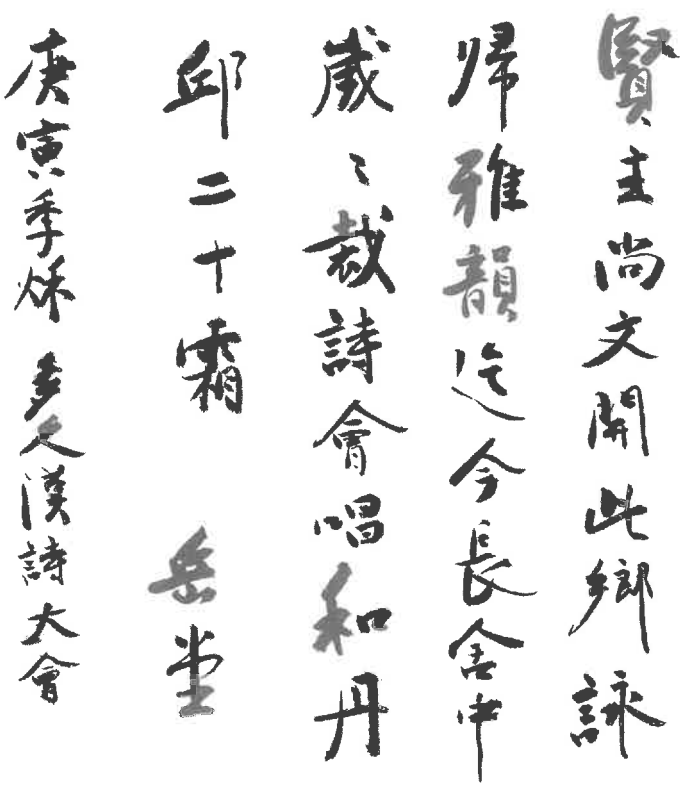


庚寅季秋丹邱偶成

明府　当年　遠猷を定め
文章の大業　丹邱に拠る
請う看よ　庠舎前庭の径
環列せる詩碑　二十秋

[語釈（参考）]
◎庚寅季秋＝庚寅は平成二十二年（二〇一〇年）。季秋は秋の終わり。
◎丹邱＝多久の雅称。
◎明府＝横尾多久市長を指す。県令（県の長官）の雅称。
◎当年＝（「孔子の里」を創設した）当時。その時。
◎遠猷＝遠大なはかりごと。　◎拠＝よりどころとする。
◎環列＝輪のように円形にならぶ。
◎二十秋＝二十年（も続いている）。
[参照（参考）]
・『財団法人「孔子の里」20周年記念誌』四ページ。
（財団法人「孔子の里」、平成二十三年（二〇一一年）二月四日発行）。

[解題（参考）]
◆平成二十二年（二〇一〇年）十一月六日
第十三回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆訓読は『財団法人「孔子の里」20周年記念誌』上のものを参考。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（流、邱、秋）。



庚寅季秋多久漢詩大会

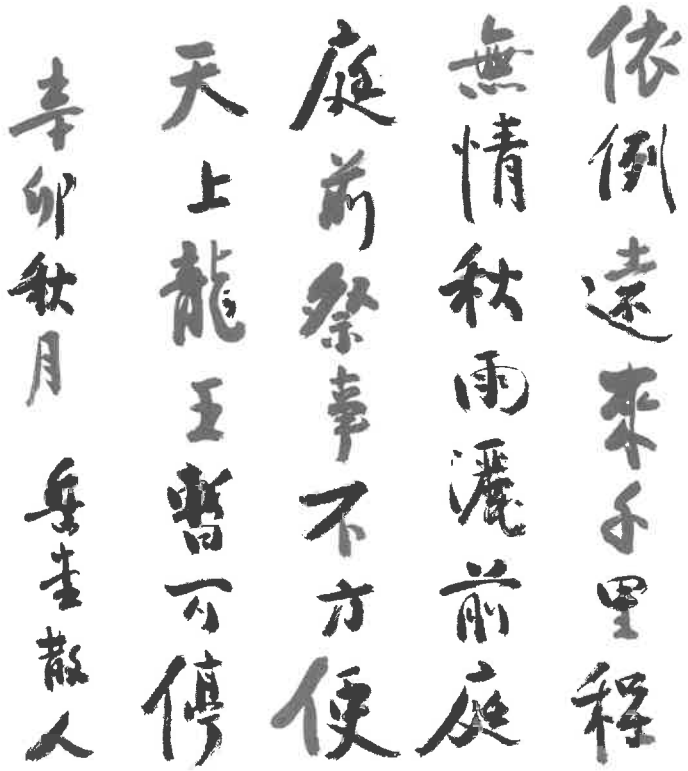
賢主　文を尚び　此の郷を開く
詠帰の雅韻　今に迄りて長し
舎中歳々　裁詩の会
唱和す　丹邱二十霜

[解題（参考）]
◆平成二十二年（二〇一〇年）十一月六日
第十三回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆訓読は『財団法人「孔子の里」20周年記念誌』のものを参考。

[押韻（参考）]
・平声陽韻（郷、長、霜）。

[語釈（参考）]
◎庚寅季秋＝庚寅は平成二十二年（二〇一〇年）。季秋は秋の終わり。
◎丹邱＝多久の雅称。
◎賢主＝多久茂文公をいう（自注）。　◎尚文＝文事を尊ぶ。
◎詠帰＝詩をうたって帰る。（孔子の）風流を楽しむ心境。（『論語』先進第十一にある、孔子が賛成した曾皙の言葉「浴乎沂、風乎舞雩、詠而帰」に基づく）
◎雅韻＝風流な趣き。　◎裁詩＝詩を作る。
◎二十霜＝二十年（続いている）。

[参照（参考）]
・『財団法人「孔子の里」20周年記念誌』四ページ。
（財団法人「孔子の里」、平成二十三年（二〇一一年）二月四日発行）。



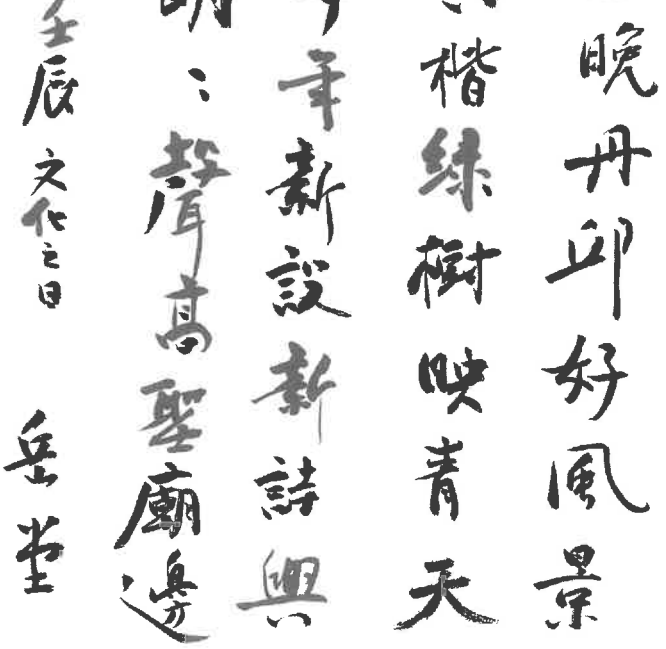
（無題）

例に依りて　遠く来る　千里の程
無情の秋雨　前庭に灑ぐ
庭前の祭事は方便にあらず
天上の龍王　暫く停むべし

[押韻（参考）]
・平声庚韻（程）と青韻（庭、停）の通韻。

[語釈（参考）]
◎依例＝いつものように。例年のごとく。
◎方便＝仮の手段。まにあわせ。
◎龍王＝水や雨・雲をつかさどる神。

[解題（参考）]
◆平成二十三年（二〇一一年）十一月五日
第十四回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆同日午前、福岡空港から多久に向かう際、激しい雨に遭ったことから表彰式までに雨が上がることを祈った気持ちを詠んだもの。
幸いに「全国ふるさと漢詩コンテスト」の表彰式および石碑の除幕式の時は雨が上がり、式典は無事行われた。

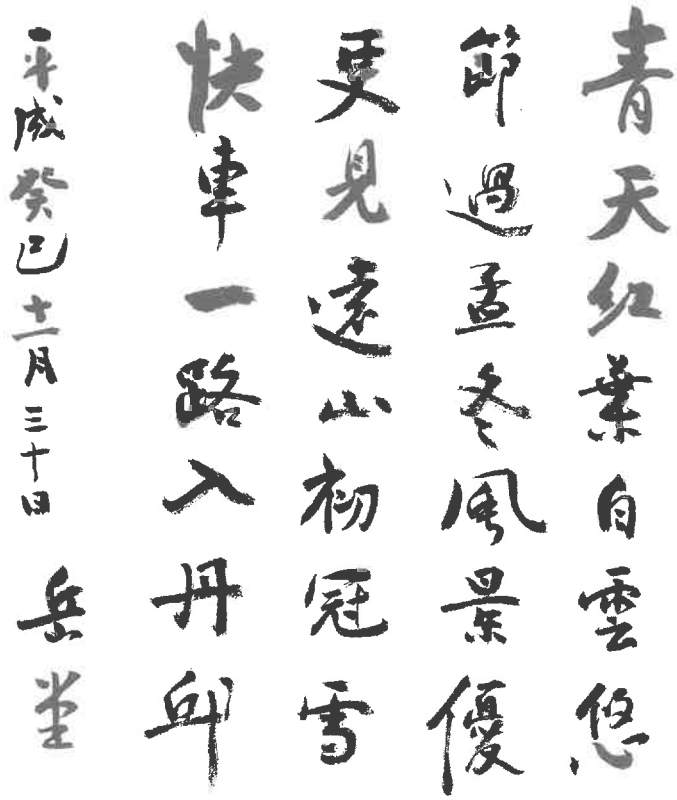


（無題）

秋晩　丹邱の好風景
黄楷　緑樹　青天に映ず
今年　新たに設く　新詩興
朗々の声は高し　聖廟の辺

[語釈（参考）]
◎秋晩＝秋の日の暮れ方。また、秋のおわり。晩秋。
◎丹邱＝多久の雅称。
◎黄楷＝葉が黄色に色づいた楷の木。
◎朗々＝声が高く澄んで、よく透るさま。
[押韻（参考）]
・平声先韻（天、辺）。第一句（景）は踏み落とし。

[解題（参考）]
◆平成二十四年（二〇一二年）十一月三日
第十五回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。

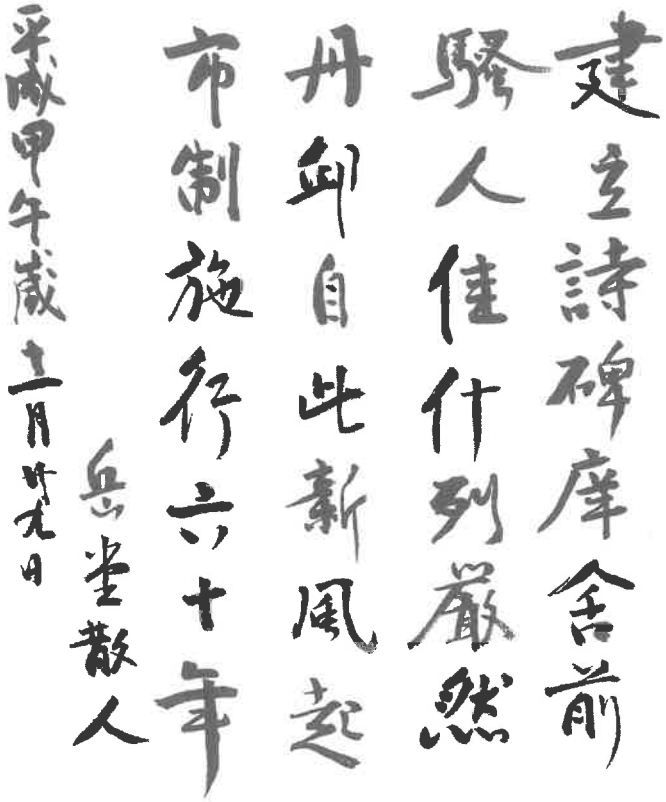


（無題）

青天　紅葉　白雲悠なり
節は孟冬を過ぎて　風景優なり
更に見る　遠山の初冠雪
快車一路　丹邱に入る

[語釈（参考）]
◎悠＝はるか、ゆったりと。　◎節＝時期、気候の変わり目。
◎孟冬＝冬のはじめ。　◎快車＝速く走る車。
◎丹邱＝多久の雅称。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（悠、優、邱）。

[解題（参考）]
◆平成二十五年（二〇一三年）十一月三十日
第十六回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。



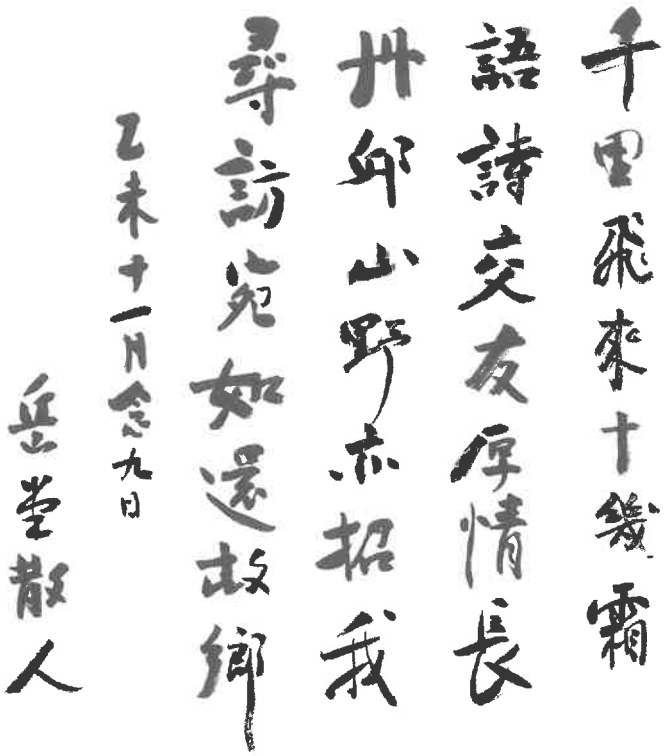
（無題）

詩碑を建立す　庠舎の前
騒人の佳什　列すること厳然たり
丹邱　此より新風起る
市制の施行　六十年

[語釈（参考）]
◎騒人＝詩人。　◎佳什＝りっぱな詩文。　◎丹邱＝多久の雅称。
◎市制施行六十年＝多久市は昭和二十九年（一九五四年）五月一日に誕生したことから、平成二十六年（二〇一四年）に六十周年を迎え、同年五月一日に市政施行六十周年記念式典が開催された。

[押韻（参考）]
・平声先韻（前、然、年）。

[解題（参考）]
◆平成二十六年（二〇一四年）十一月二十九日
第十七回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。



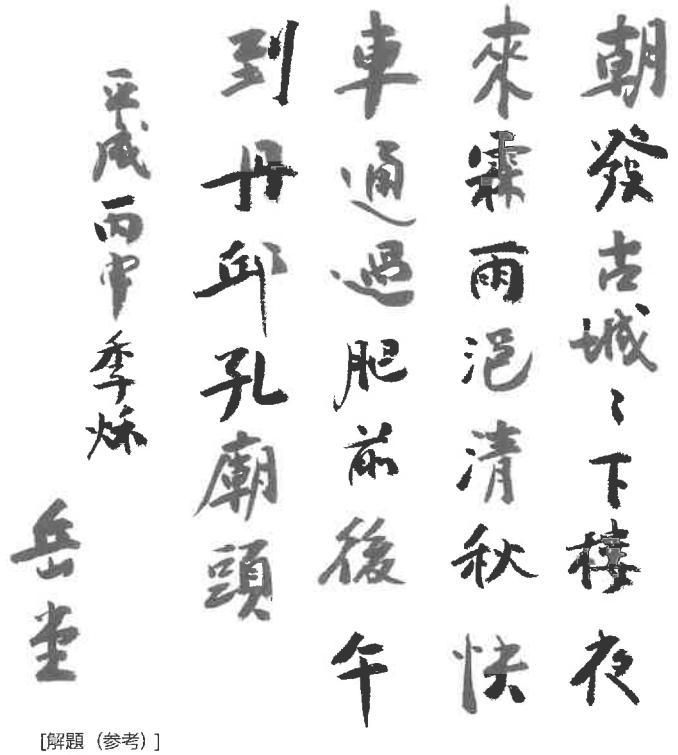
（無題）

千里飛来して十幾霜
詩を語る交友　厚情長し
丹邱の山野も亦我を招き
尋訪　宛も故郷に還るが如し

語釈（参考）]
◎十幾霜＝十数年。　◎厚情＝親切な心。　◎丹邱＝多久の雅称。
◎尋訪＝多久を訪問する。
◎宛如＝まるで～のようだ。

[押韻（参考）]
・平声陽韻（霜、長、郷）。

[解題（参考）]
◆平成二十七年（二〇一五年）十一月二十九日
第十八回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。

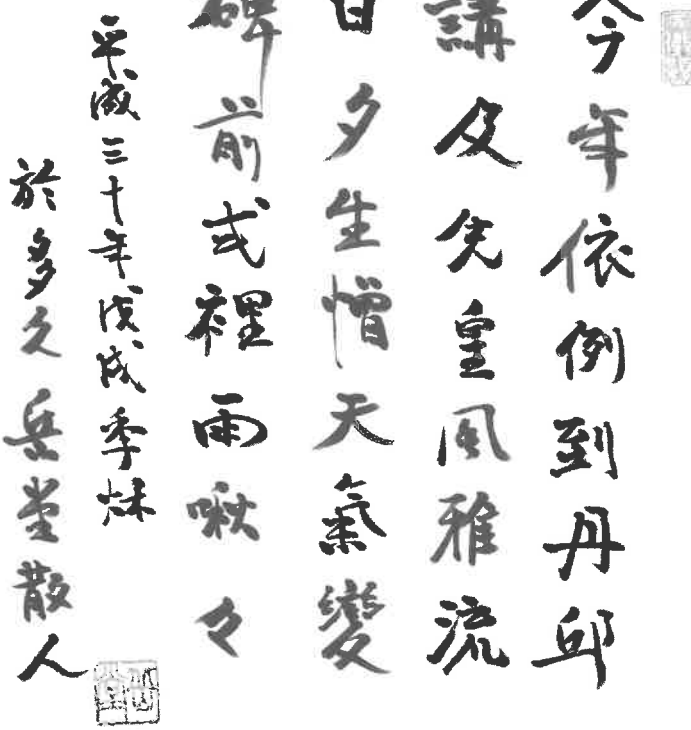


（無題）

朝に発す　古城城下の楼
夜来の霖雨　清秋を浥す
快車　通り過ぐ　肥の前後
午に到る　丹邱孔廟の頭

[解題（参考）]
◆平成二十八年（二〇一六年）十二月四日
第十九回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆前日、熊本市にてイベントがあり、熊本城天守閣に近いホテルに泊まり、翌朝、熊本を発ち多久に向かった。
第一句の「古城城下の楼」はこの熊本市のホテルを指す。
第二句は、前夜からの雨が降り続いていたことをいう。
◆熊本市から多久市に車で向かったが、熊本県内（肥後）と佐賀県内（肥前）を長い距離移動したので、「通過肥前後（肥の前後）」と言った。

[語釈（参考）]
◎古城城下楼＝熊本城に近いホテルのこと。
◎霖雨＝ながあめ。　◎快車＝速く走る車。
◎通過肥前後＝佐賀県（旧肥前）と熊本県（旧肥後）の両県（旧両国）を長距離移動したことをいう。
◎丹邱孔廟＝多久聖廟。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（楼、秋、頭）。



（無題）

今年　例に依りて　丹邱に到る
講じ及ぶ　先皇　風雅の流
日夕　生憎や　天気変じて
碑前の式裡　雨啾々

[解題（参考）]
◆平成三十年（二〇一八年）十二月二日
第二十一回「全国ふるさと漢詩コンテスト」における作。
◆第二句は、この年の公開講座の演題が「大正天皇の漢詩」であったことに基づく。

[語釈（参考）]
◎先皇＝大正天皇。
◎風雅流＝（詩文の）みやびなこと。風流。
◎日夕＝午後四時ころから日暮れまでの時。ひぐれどき。
◎生憎＝いまいましいことに。
◎式裡＝（最優秀作品の詩碑除幕）式の最中に。
◎啾々＝シトシト降る雨の音。
[参照（参考）]
・『斯文』平成三十年度第一三四号（平成三十一年（二〇一九年）三月三十一日発行）。
[押韻（参考）]
・平声尤韻（邱、流、啾）。

主な事業について

釈菜

多久聖廟は、多久四代領主多久茂文公が創建し、多久領で管理されたが、明治十七年に多久の各村の代表が聖廟保存会を設置し管理することになった。その後も多久聖廟管理委員会を経て、多久市が誕生した際に市へ移管された。平成二年の財団設立後は財団に移管され、歴史的伝統文化を適切に保存し、次世代へと的確に引き継ぐとともに、市民の参加を促し、地域文化として形成を図り、不特定かつ多数の利益の増進に寄与することを目的として、三十年間、この事業を行っている。

そもそも釈菜とは、孔子を祀る正式な儀式で、国家的な孔子廟や幕府・藩などの孔子廟、藩校で行われる釈奠を略式にしたものである。

藩より小さな地方の孔子廟では、犠牲と幣を省略し、蔬菜を中心に供えるなど簡略化した形式で実施されており、岡山県の閑谷学校も同様に釈菜という名称で行われている。

多久聖廟の釈菜は、宝永五年（一七〇八）以来、連綿と続けており、佐賀県重要無形民俗文化財に指定されている。当時は旧暦の二月と八月の上丁の日に行われていたが、明治時代になると太陽暦が使われ、春は四月、秋は十月の上丁の日に行われるようになり、大正六年（一九一七）から春は四月十一日、秋は十月十一日に行われ、昭和六年（一九三一）から四月と十月の十八日に行われるようになった。

平成三年から春は四月十八日、秋は十月の第三日曜日に行われ、平成十九年から、秋は十月の第四日曜日に行われるようになった。

祭官は、献官、掌儀、賛者、祝者、司尊、執爵、執饌、執事諸役、伶人からなり、当時は多久領家老蜀や上級家臣、学問所の教官などが務めていたが、現在は献官を多久市長、掌儀を市議会議長、賛者と祝者を熟練者、司尊を教育長、執爵と執饌を学校長が務めている。執事諸役や地元関係者や市関係者、雅楽を演奏する伶人は市役所職員が受け継いでいる。平成三十一年には、初めて伶人に女性が加わった。

現在、使用している祭器（豆、籩、龍杓、爵、水注）は創建当時から使用していると考えられ、式順も江戸時代に書かれた『釈菜儀節』によって今も執り行われている。

平成二十七年度には、国の文化芸術振興費補助金を活用して、釈菜等を引き継ぐ次世代の育成及び儀式の正当な作法を伝承する為、記録映像を作成した。記録編として、各祭官の作法や基本・重要動作の映像及び雅楽音声、釈菜委員会や準備等、総合的に釈菜に関する情報をまとめ理解し易く整備した。

令和二年度の春季釈菜及び秋季釈菜は、世界的に新型コロナウイルス感染症が流行し、釈菜も感染拡大を防ぐ為の対策として、過去の慣例に従って『略祭』（雅楽の演奏を中止して、「御供物」だけを行う儀式）にて実施した。（『略祭』は享和二年（一八〇二）二月、佐賀城多久屋敷焼失の時に行われた記録が残っている。また、藩主・領主の喪の場合にも略祭で行われている）

全国ふるさと漢詩コンテスト

平成十年度に漢学・漢詩文化の継承事業として開始した本事業は、二十三年目を迎え、日本全国でも知られる漢詩大会に成長した。関係者皆様のご協力により、この期間にご応募いただいた漢詩の総数は六千五百五十五点に上る。日本において明治以降、日本文化の中軸であった漢文や読み下し文の読解力は衰退している一方で、漢詩漢文の面白さを理解する根強い漢詩ファンも多い。

本大会の特徴として、他の大会に比べて入賞数が少なく、入選することが難しくなっていること、また最優秀賞（一席）の漢詩は、その名誉を讃えて、多久聖廟の側に漢詩碑を建立しています。毎年の表彰式の当日は、東原庠舎にて無料の公開講演会を開催し、石碑披露の場面では、佐賀豊明会の皆様に最優秀作品を吟じてもらい、花を添えていただいている。

事業発足以来、湯島聖堂に事務所を置く公益財団法人斯文会様には多大なご協力をいただき、名誉副会長の石川忠久先生には現在も審査員を務めていただくなど、長きに亘りご厚情いただいている。

コロナ禍であった令和二年度は、理事長の宇野茂彦先生をお招きし、規模を縮小して実施した。

平成29年度　第20回　除幕式

ジュニアガイド

令和二年で十六年目を迎え、これまでに総勢百二十一名（義務教育学校三年生から六年生）の子ども達が孔子の里ジュニアガイドとして、活動を行ってきた。

本事業は地域の歴史文化を学び、ガイドとしての心構えや体験を通じて、自立や交流を促し、子ども達の育成を図る目的で実施しており、現在、月に2回、多久聖廟及び東原庠舎の歴史などについて、多久聖廟を訪れた観光客の方々にガイドを行っている。

ガイドされた観光客の方は、子ども達の活動に対し、温かい拍手をくださり、中には活動の素晴らしさや、ガイド内容について感動し、御礼のお手紙をいただくことがある。ガイド活動以外にも佐賀県内にある同世代の他団体と交流や、観光地等の研修を行っている。

そのような活動が認知され、令和元年には、多久市教育委員会発表会にて、ガイドの様子を県内の各市町の皆様に披露することができた。

一連の事業が継続できている理由として、活動を理解し協力してくださる多久市及び多久市の義務教育学校、参加児童のご家族が大きな支えとなっている。

令和二年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、活動の当面休止などもあったが、その期間を使って子ども達はガイドの練習や、アイデアなどを出し合うなどを行っている。

書籍発行

財団では多久聖廟・東原庠舎などの多久の歴史を広く一般に周知するため、書籍の発行を行ってきた。

論語の一文を使用して発行した「百人一首式論語かるた」や「論語いろはかるた」は大手ネットショッピングサイトでも販売しており、全国から注文をいただいている。

平成二十七年から、熊本県宇城市の小中学校全十八校で活用されており市内生徒による論語カルタ大会も開催されている。令和元年度には「多久聖廟を歩く」を発行した。多久聖廟を訪れた観光客にもわかりやすい内容で、多久聖廟の装飾や伝統行事釈菜の式順、多久四代領主多久茂文公が残した「文廟記」やその歴史について詳細に記載している。

平成二十九年の四月から「鶴山書院報」を発行している。内容は、財団で行っている事業や、多久に関する記事の紹介をしている。

現在販売中の書籍等は左のとおり（税込）

- 論語いろはかるた　1,550円
- 百人一首式論語かるた　3,000円
- 解説書　500円
- 多久の詩情　1,000円
- 多久聖廟を歩く　500円

新年のつどい

平成三年度から「新年のつどい」（平成三年度から平成八年度までは「名刺交換会」で実施）事業を、多久市民の有志等が一堂に会して、新年の抱負を語らい、お互いの親睦を図る為に開催している。

会場は多久市内の施設で実施しており、平成三十年度から雇用創出、定住・交流人口の増加、地域活性化を目的として開設された「天山多久温泉ＴＡＱＵＡ」で実施している。

例年、その年に活躍した人物や活動などを紹介したり、祝いの席に合う出し物を地元の方の協力を得て皆様に披露している。

令和二年度はコロナ禍での開催となり、参加者の健康と安全を考え、初めての試みであったが紙面による新年のつどいを開催した。

平成26年　佐賀竹聖会様による［祝唄］披露

多久百景写真コンテスト

平成二十九年度より、多久の素晴らしい景色や風景を切り取った写真を募集し、コンテストを開催する事業。令和二年度までに、毎年二十作品の優秀作品を集め、現在、総応募数七百九十九点の応募があり、八十作品が集まっている。応募者の多くが市外在住であり、多久を知ってもらう良い機会になっている。

受賞者から画像の使用権を提供いただき、画像使用申請書を提出すれば、誰でも使用できるようにしており、財団で発行している書籍や会報に留まらず、多久市内の発行物やそれぞれの団体HPなど、幅広く活用されている。

授賞式を秋季釈菜と同日に実施しており、儀式を楽しんでもらうと同時に、式典を終えた献官(市長)が、式典の衣装で賞状等を授与するのが好評を得ている。

本冊子にも随所に使用しているので、是非、現地に見に来て、多久の素晴らしさを感じて欲しい。

第4回　多久百景写真コンテスト　グランプリ作品

中国の旅（市民の翼）

平成十三年度より、多久市は、多久聖廟がある由縁から中国や孔子直系子孫の方々と関係が深く、財団においても積極的に交流を行っている。中国の旅では、毎年参加者を募り、中国の各所を訪れることで、市民同士の友好を育み、中国文化への理解を深めることを目的としている。特に北京にお住まいの孔德懋女史を毎年のように訪問し、継続的に交流を行ってきた。五年に一度は「市民の翼」とし、平成三十年度は、友好都市締結二十五周年を記念し、山東省曲阜市の表敬訪問を行い、曲阜市政府幹部及び教育関係者と交流を深めた。曲阜市内（三孔や市民センター等）を視察訪問し、曲阜市政府の計らいにより簡易版の孔子祭を開催していただき、献花・参拝・記念植樹を行った。また、北京孔德懋氏のお見舞いや、孔子基金会との懇親会も行っている。

平成二十三年度	上海、豊都・巫山・宜昌・武漢
平成二十四年度	台北市（第七十九代孔垂長氏就任）
平成二十五年度	上海・曲阜・北京（市民の翼として実施）
平成二十六年度	北京・洛陽・少林寺・鄭州・上海
平成二十七年度	北京・ハルピン・長春
平成二十八年度	西安・北京
平成二十九年度	内モンゴル・シラムレン草原とフフホト・北京
平成三十年度	上海・曲阜・泰山・北京（市民の翼として実施）
令和元年度	世界遺産客家土楼・厦門
令和二年度	新型コロナウイルス感染拡大を受け中止

公益財団法人孔子の里定款（一部抜粋）

第1章　総則

（名称）
第1条　この法人は、公益財団法人孔子の里と称する。

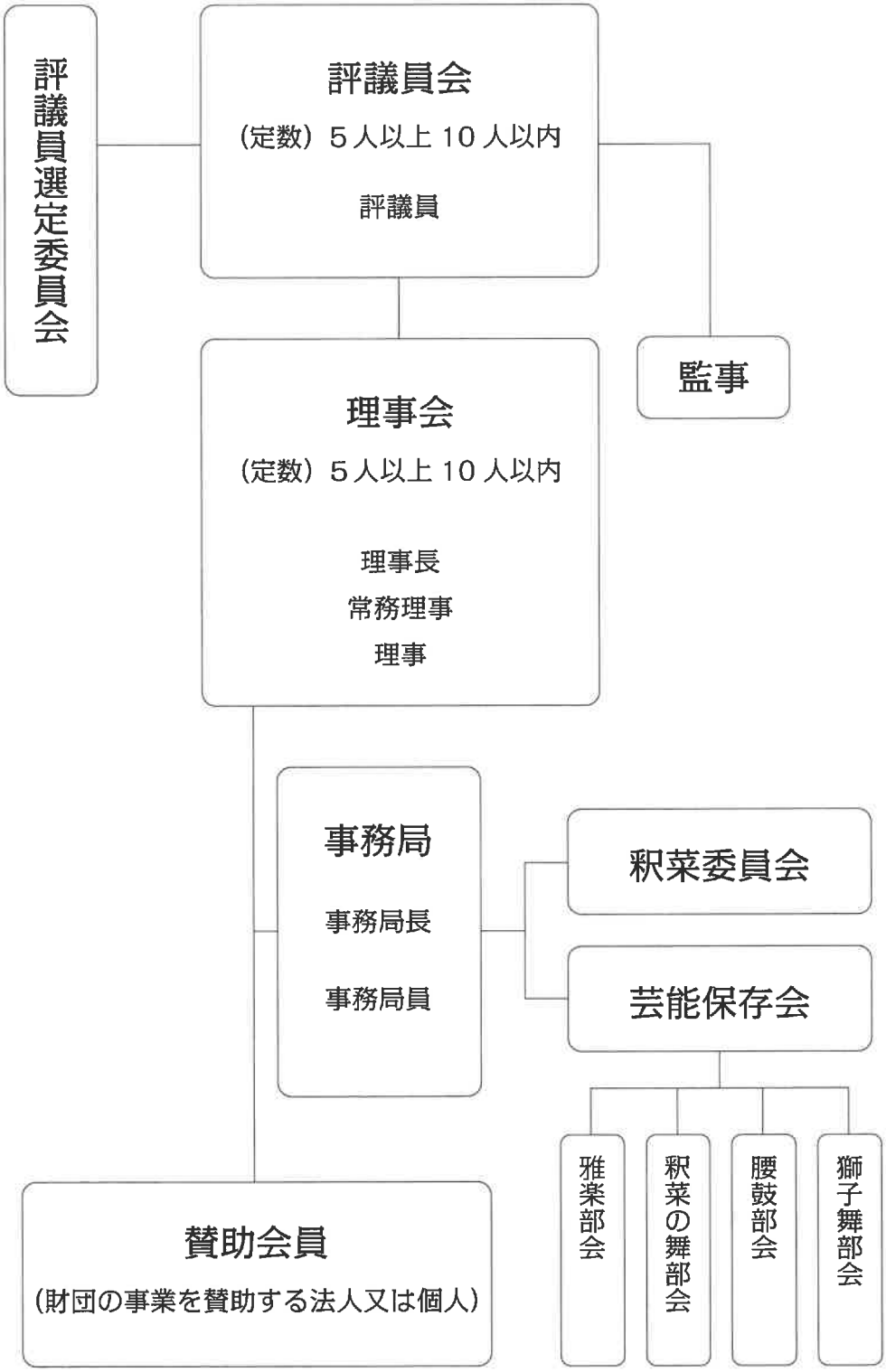
（事務所）
第2条　この法人は、主たる事務所を佐賀県多久市に置く。

第2章　目的及び事業

（目的）
第3条　この法人は、重要文化財多久聖廟及びその周辺に所在する史跡等の保全とすぐれた自然条件との調和のとれた開発を推進し、快適な環境の醸成と、由緒ある文教の地に適応した学芸文化の研鑽振興を図り、もって地域の活力ある発展に寄与することを目的とする。

（事業）
第4条　この法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
（1）重要文化財多久聖廟及びその周辺に所在する史跡等（以下「文化財地域」という。）の環境の保全整備に関する事業
（2）文化財地域に係わる学芸文化の研鑽振興に関する事業
（3）文化財地域に係わるスポーツ・レクリェーション等の開催に関する事業
（4）文化財地域の紹介及び機関紙等の刊行に関する事業
（5）児童又は青少年の健全な育成に関する事業
（6）学芸文化に係わる公共施設等の管理を受託する事業
（7）学芸文化の先達者の顕彰に関する事業
（8）その他この法人の目的達成に必要な事業を行う事業
2　前項の事業は、佐賀県において行うものとする。

公益財団法人 孔子の里 組織図



歴代理事名簿 （機関・団体名／氏名）

◆平成７年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	東郷　典治
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	鳥越　豊治
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	中島　一峯
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	石丸　　勝
多久町懇話会代表	梶原　　守
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学職経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市助役）	鳥井　強一
学識経験者（多久市中央公民館館長）	野口　五男

◆平成８年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	東郷　典治
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	鳥越　豊治
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	中島　一峯
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	相浦　司道
多久町懇話会代表	梶原　　守
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学職経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市助役）	鳥井　強一
学識経験者（多久市中央公民館館長）	吉木　靖範

◆平成９年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	東郷　典治
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	中島　一峯
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	相浦　司道
多久町懇話会代表	梶原　　守
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学識経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市助役）	鳥井　強一
学識経験者（多久市中央公民館館長）	吉木　靖範

◆平成元年～平成３年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	西山　友男
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
多久市体育協会理事長	千北　正次
多久市文化連盟会長	不二見達郎
多久市区長会会長	諸石　久美
多久市地域婦人連絡協議会会長	金子　ハツ
小城・多久地区労代表	田中　　榮
多久市社会福祉協議会副会長	石丸　　勝
多久町懇話会代表	西山徳四郎
日中友好協会多久支部支部長	山崎　　廉
学職経験者（佐賀県議会議員）	白木　三男
学職経験者（多久市議会議長）	鳥越　豊治
学識経験者（孔子の里常務理事）	野方　辰美

◆平成４年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	西山　友男
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	鳥越　豊治
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	諸石　久美
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	石丸　　勝
多久町懇話会代表	瓦田　琢磨
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（佐賀県議会議員）	白木　三男
学職経験者（多久市議会議長）	山口　龍樹
学識経験者（多久市中央公民館館長）	野口　五男

◆平成５年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	西山　友男
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	鳥越　豊治
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	諸石　久美
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	石丸　　勝
多久町懇話会代表	瓦田　琢磨
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学職経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市中央公民館館長）	野口　五男

◆平成６年

多久市長	百崎　素弘
多久市教育長	東郷　典治
多久市農業協同組合組合長	廣橋　　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	鳥越　豊治
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	山口　照雄
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	石丸　　勝
多久町懇話会代表	瓦田　琢磨
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学職経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市中央公民館館長）	野口　五男

歴代理事名簿 （機関・団体名／氏名）

多久町懇話会代表	梶原　守
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	山口　龍樹
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	森永　健之
学識経験者	木下　治夫

◆平成13年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
多久市農業協同組合組合長	諸石　久美
多久市商工会会長	小柳　末人
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	西山　英徳
多久市区長会会長	牟田　章
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	平山　晃
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	山口　龍樹
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	森永　健之
学識経験者	木下　治夫
学識経験者	野方　辰美

◆平成14年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
佐城農業協同組合理事	山田　貞彦
多久市商工会会長	小柳　末人
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	西山　英徳
多久市区長会会長	牟田　章
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	平山　晃
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	山口　龍樹
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	森永　健之
学識経験者	木下　治夫
学識経験者	野方　辰美

◆平成15年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
佐城農業協同組合理事	山田　貞彦
多久市商工会会長	小柳　末人
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市区長会会長	牟田　章
多久市地域婦人連絡協議会会長	野口千鶴子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	平山　晃
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学職経験者（多久市議会議長）	武冨　健一
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	森永　健之
学識経験者	木下　治夫
学識経験者	野方　辰美
学識経験者	最所　和泉

◆平成９年９月18日（市長交替）

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
多久市農業協同組合組合長	廣橋　勇
多久市商工会会長	谷口　秀雄
多久市観光協会事業委員長	木下　治夫
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	中島　一峯
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	相浦　司道
多久町懇話会代表	梶原　守
多久市日中友好協会理事長	山口　豊彦
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学識経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市助役）	鳥井　強一
学識経験者（多久市中央公民館館長）	吉木　靖範

◆平成10年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
多久市農業協同組合組合長	田中　行雄
多久市商工会会長	小柳　末人
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	中島　一峯
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	相浦　司道
多久町懇話会代表	梶原　守
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	渡島　榮春
学識経験者（多久市議会議長）	山本　善治
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	吉木　靖範
学識経験者	木下　治夫

◆平成11年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
多久市農業協同組合組合長	田中　行雄
多久市商工会会長	小柳　末人
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	牟田　章
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	相浦　司道
多久町懇話会代表	梶原　守
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	山口　龍樹
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	吉木　靖範
学識経験者	木下　治夫

◆平成12年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
多久市農業協同組合組合長	諸石　久美
多久市商工会会長	小柳　末人
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会会長	武冨　健一
多久市文化連盟会長	野方　辰美
多久市区長会会長	牟田　章
多久市地域婦人連絡協議会会長	吉谷サト子
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	平山　晃

歴代理事名簿 （機関・団体名／氏名）

連合佐賀多久小城地域協議会幹事	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	古賀　信成
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	古賀　和夫
学識経験者（多久市副市長）	藤田　和彦
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	木下　治夫
学識経験者	最所　和泉

◆平成20年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
JAさが佐城統括支部理事	飯守　康洋
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会会長	山口　龍樹
財団法人多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟会長	西山　英徳
多久市区長会会長	森　久光
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子
連合佐賀多久小城地域協議会副議長	香月　正則
多久市社会福祉協議会副会長	諸隈　博子
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	古賀　和夫
学識経験者（多久市副市長）	藤田　和彦
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	最所　和泉

◆平成21年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
JAさが佐城統括支部理事	飯守　康洋
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会会長	山口　龍樹
財団法人多久市体育協会会長	鳥井　勝久
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市区長会会長	森　久光
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子
連合佐賀多久小城地域協議会副議長	香月　正則
多久市社会福祉協議会会長	古賀　正義
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	牛島　和廣
学識経験者（多久市副市長）	藤田　和彦
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	最所　和泉

◆平成22年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
JAさが佐城統括支部理事	飯守　康洋
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会会長	山口　龍樹
財団法人多久市体育協会会長	鳥井　勝久
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市区長会会長	徳永　裕幸
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子
連合佐賀多久小城地域協議会副議長	香月　正則
多久市社会福祉協議会会長	古賀　正義
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	牛島　和廣
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	藤田　和彦
学識経験者	服部　政昭

◆平成16年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
佐城農業協同組合理事	山田　貞彦
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会会長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟会長	木下　治夫
多久市区長会会長	牟田　章
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子
連合佐賀多久小城地域協議会幹事	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	平山　晃
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	武冨　健一
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	野方　辰美
学識経験者	最所　和泉

◆平成17年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	尾形善次郎
佐城農業協同組合理事	山田　貞彦
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会理事委員長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟会長	西山　英徳
多久市区長会会長	瀬戸口末次
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子
連合佐賀多久小城地域協議会幹事	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	古賀　信成
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	古賀　和夫
学識経験者（多久市助役）	古賀　正義
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	木下　治夫
学識経験者	最所　和泉

◆平成18年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
佐城農業協同組合理事	真島　信幸
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会理事委員長	谷口　秀雄
財団法人多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟会長	西山　英徳
多久市区長会会長	瀬戸口末次
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子
連合佐賀多久小城地域協議会幹事	中原　鎮
多久市社会福祉協議会副会長	古賀　信成
多久町懇話会代表	大塚　正直
多久市日中友好協会理事長	野口　和英
学職経験者（孔子の里常務理事）	林口　彰
学職経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	古賀　和夫
学識経験者（多久市助役）	藤田　和彦
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	木下　治夫
学識経験者	最所　和泉

◆平成19年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
佐城農業協同組合理事	真島　信幸
多久市商工会会長	飯盛　康登
多久市観光協会会長	山口　龍樹
財団法人多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟会長	西山　英徳
多久市地域婦人連絡協議会会長	西山智恵子

歴代理事名簿 （機関・団体名／氏名）

◆平成28年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	田原　優子
公益財団法人孔子の里常務理事	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市嘱託員会会長	野田　義雄
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	飯盛　康登

◆平成29年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	田原　優子
公益財団法人孔子の里常務理事	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市嘱託員会会長	野田　義雄
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	飯盛　康登

◆平成30年

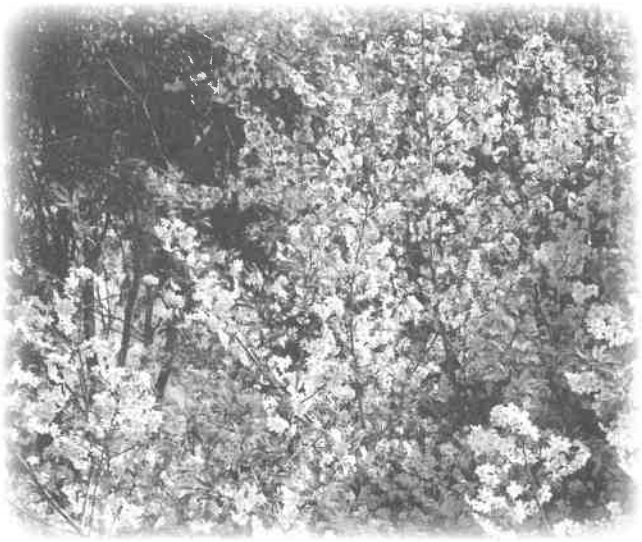
多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	田原　優子
公益財団法人孔子の里常務理事	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市嘱託員会会長	野田　義雄
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	飯盛　康登

◆令和元年（平成31年）

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	田原　優子
公益財団法人孔子の里常務理事	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市嘱託員会会長	野田　義雄
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	藤川　範史

◆令和２年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	田原　優子
公益財団法人孔子の里常務理事	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市嘱託員会会長	大島　克己
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	藤川　範史



◆平成23年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
JAさが佐城統括支部理事	吉岡　久孝
多久市商工会会長	飯盛　康登
財団法人多久市体育協会会長	鳥井　勝久
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市区長会会長	野方　正義
多久市地域婦人連絡協議会会長	市丸　悦子
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久町懇話会代表	陣内　謙三
多久市日中友好協会理事長	尾形　節子
学識経験者（孔子の里常務理事）	梶原　栄三
学識経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	山本　茂雄
学識経験者（多久市副市長）	渕上　哲也
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	服部　政昭

◆平成24年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
JAさが佐城統括支部理事	吉岡　久孝
多久市商工会会長	飯盛　康登
財団法人多久市体育協会理事長	鳥井　勝久
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
多久市区長会会長	野方　正義
多久市地域婦人連絡協議会会長	市丸　悦子
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久町懇話会代表	陣内　謙三
多久市日中友好協会理事長	尾形　節子
学識経験者（孔子の里常務理事）	平山　豊
学識経験者（佐賀県議会議員）	福島　光洋
学識経験者（多久市議会議長）	山本　茂雄
学識経験者（多久市副市長）	渕上　哲也
学識経験者（多久市中央公民館館長）	川内丸信吾
学識経験者	服部　政昭

◆平成25年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
学識経験者	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
公益財団法人孔子の里常務理事	本島　和典
多久市嘱託員会会長	桃﨑　義廣
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	飯盛　康登

◆平成26年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
学識経験者	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
多久市文化連盟会長	吉浦啓一郎
公益財団法人孔子の里常務理事	本島　和典
多久市嘱託員会会長	桃﨑　義廣
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	飯盛　康登

◆平成27年

多久市長	横尾　俊彦
多久市教育長	中川　正博
学識経験者	服部　政昭
学識経験者	武田　耕一
公益財団法人孔子の里常務理事	吉浦啓一郎
多久市嘱託員会会長	野田　義雄
多久市社会福祉協議会会長	藤田　和彦
多久市商工会会長	飯盛　康登

歴代評議員名簿 （機関・団体名／氏名）

◆平成５年

多久市農業協同組合参事	中島　鹿登
多久市農業協同組合青年部長	松尾　俊郎
多久市農業協同組合婦人部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	藤川　範史
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会事務局長	浜口　博之
多久市観光協会事業委員会副委員長	桃崎　俊治
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	佐藤　隆治
多久市文化連盟評議員会	谷口清八郎
多久市文化連盟常任理事	武藤　郁夫
多久市老人会事務局長	岡島　秀敏
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	永井　恭子
多久市青年団体代表	野方　敏英
聖廟釈菜伶人楽長	新郷　松次
多久市育友会連合会会長	田中　英行
多久町東の原区区長	野中　良夫
小城・多久地区労代表	前山　充
多久市社会福祉協議会事務局長	瀬戸口末次
多久市日中友好協会事務局長	野口　和英
多久市区長会副会長	山口　照雄
多久市分館長会長	冬野　政美
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	小川　利彦
多久市教育次長	冨田　虎男
学識経験者（多久市議会副議長）	武冨　健一
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
学識経験者	川副　春海
多久市郷土研究会会長	大野　常蔵
多久市小・中学校校長会会長	尾形善次郎
たんきゅう会	森永　茂

◆平成６年

多久市農業協同組合参事	中島　鹿登
多久市農業協同組合青年部長	松尾　俊郎
多久市農業協同組合婦人部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	藤川　範史
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会事務局長	浜口　博之
多久市観光協会事業委員会副委員長	桃崎　俊治
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	佐藤　隆治
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟事務局長	武藤　郁夫
多久市老人会事務局長	岡島　秀敏
多久市地域婦人連絡協議会副会長	古賀　栄子
多久市青年団体代表	野方　敏英
聖廟釈菜伶人楽長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	篠川　真敏
多久町東の原区区長	野中　良夫
小城・多久地区労代表	前山　充
多久市社会福祉協議会事務局長	瀬戸口末次
多久市日中友好協会事務局長	野口　和英
多久市区長会副会長	北里　正男
多久市分館長会長	冬野　政美
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	小川　利彦
多久市教育次長	冨田　虎男
学識経験者（多久市議会副議長）	武冨　健一
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
学識経験者	川副　春海
多久市小・中学校校長会会長	石丸　徳司
多久市郷土研究会会長	大野　常蔵
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎

◆平成元年～平成３年

多久市農業協同組合参事	中島　鹿登
多久市農業協同組合青年部長	田代　純一
多久市農業協同組合婦人部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	田中　博幸
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会事務局長	浜口　博之
多久市観光協会事業委員会副委員長	桃崎　俊治
多久市体育協会副会長	梶原　守
多久市文化連盟役員会	瀬戸口六良
多久市文化連盟評議員会	谷口清八郎
多久市文化連盟推進協議会	佐藤　隆治
多久市老人会代表	永喜　高夫
多久市交通安全協会会長	諸冨　俊介
多久市地域婦人連絡協議会副会長	吉谷サト子
多久市青年団体代表	田中　穂積
聖廟釈菜伶人楽長	新郷　松次
多久市育友会連合会会長	梅崎　茂弘
多久町東の原区区長	野中　史雄
小城・多久地区労代表	中原　鎮
多久市社会福祉協議会事務局長	武藤　郁夫
日中友好協会多久支部事務局長	大坪　等
たんきゅう会代表	山田　肇
多久市区長会副会長	瓦田　一生
多久市分館長会長	後藤　太郎
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	小川　利彦
多久市教育次長	冨田　虎男
学識経験者（多久市議会副議長）	山口　龍樹
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章

◆平成４年

多久市農業協同組合参事	中島　鹿登
多久市農業協同組合青年部長	太田　勉
多久市農業協同組合婦人部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	藤川　範史
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会事務局長	浜口　博之
多久市観光協会事業委員会副委員長	桃崎　俊治
多久市体育協会理事長	諸冨　俊介
多久市文化連盟副会長	佐藤　隆治
多久市文化連盟評議員会	谷口清八郎
多久市文化連盟常任理事	武藤　郁夫
多久市老人会事務局長	岡島　秀敏
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	永井　恭子
多久市青年団体代表	野方　敏英
聖廟釈菜伶人楽長	新郷　松次
多久市育友会連合会会長	田中　英行
多久町東の原区区長	野中　史雄
小城・多久地区労代表	古賀　浩
多久市社会福祉協議会事務局長	瀬戸口末次
多久市日中友好協会事務局長	野口　和英
多久市区長会副会長	山口　照雄
多久市分館長会長	後藤　太郎
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	小川　利彦
多久市教育次長	冨田　虎男
学識経験者（多久市議会副議長）	武冨　健一
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
学識経験者	川副　春海
多久市郷土研究会会長	柴元　静雄
多久市小・中学校校長会会長	東郷　典治
たんきゅう会	森永　茂

歴代評議員名簿（機関・団体名／氏名）

◆平成９年

多久市農業協同組合参事	武富　忠信
多久市農業協同組合青年部長	山下　孝人
多久市農業協同組合女性部長	七浦　信子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	百崎　勝徳
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会副会長	桃崎　俊治
多久市観光協会事務局長	川浪　保信
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	野口　五男
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟事務局長	武藤　郁夫
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	小園　照子
多久市青年団体代表	宮崎啓二郎
聖廟釈菜伶人楽長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	大塚　正直
多久町東の原区区長	松江　博
小城・多久地区労代表	田代　信一
多久市社会福祉協議会事務局長	桑原　正治
多久市日中友好協会事務局長	野口　和英
多久市区長会副会長	秋次　稔
多久市分館長会長	山田　博隆
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	太郎浦明義
多久市教育次長	齊藤　安生
学識経験者（多久市議会副議長）	梅崎　茂弘
学識経験者	武富　健一
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
孔子の里芸能保存会常任幹事	森永　健之
多久市郷土研究会会長	野中　史雄
多久市小・中学校校長会会長	久保　大輔
多久市老人会連合会事務局長	西山　和秀

◆平成10年

多久市農業協同組合参事	武富　忠信
多久市農業協同組合青年部長	山下　孝人
多久市農業協同組合女性部長	桃崎　和子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	百崎　勝徳
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会副会長	桃崎　俊治
多久市観光協会事務局長	川浪　保信
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	野口　五男
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟常任理事	武藤　郁夫
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	小園　照子
多久市青年団体代表	宮崎啓二郎
聖廟釈菜伶人楽長・多久市教育次長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	大塚　正直
多久町東の原区区長	松江　博
小城・多久地区労代表	田代　信一
多久市社会福祉協議会事務局長	桑原　正治
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	秋次　稔
多久市分館長会長	山田　博隆
多久市総務課長	太郎浦明義
多久市農林商工課長	藤田　和彦
学識経験者（多久市議会副議長）	梅崎　茂弘
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
孔子の里芸能保存会常任幹事	森永　健之
多久市小・中学校校長会会長	永井　大善
多久市老人会事務局長	西山　和秀

◆平成７年

多久市農業協同組合参事	中島　鹿登
多久市農業協同組合青年部長	岡村　裕児
多久市農業協同組合婦人部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	古賀　公彦
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会副会長	桃崎　俊治
多久市観光協会事務局長	浜口　博之
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	佐藤　隆治
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟事務局長	武藤　郁夫
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	古賀　栄子
多久市青年団体代表	野方　敏英
聖廟釈菜伶人楽長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	篠川　真敏
多久町東の原区区長	江口　亨
小城・多久地区労代表	前山　充
多久市社会福祉協議会事務局長	瀬戸口末次
多久市日中友好協会事務局長	野口　和英
多久市区長会副会長	諸江　信義
多久市分館長会長	渋谷　初實
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	太郎浦明義
多久市教育次長	野方　晧
学識経験者（多久市議会副議長）	武富　健一
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
学識経験者	川副　春海
多久市郷土研究会会長	大野　常蔵
多久市小・中学校校長会会長	徳永　誠行

◆平成８年

多久市農業協同組合参事	武富　忠信
多久市農業協同組合青年部長	岡村　裕児
多久市農業協同組合女性部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	古賀　公彦
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会副会長	桃崎　俊治
多久市観光協会事務局長	川浪　保信
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	野口　五男
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟事務局長	武藤　郁夫
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	小園　照子
多久市青年団体代表	野方　敏英
聖廟釈菜伶人楽長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	大塚　正直
多久町東の原区区長	江口　亨
小城・多久地区労代表	石井　淳二
多久市社会福祉協議会事務局長	桑原　正治
多久市日中友好協会事務局長	野口　和英
多久市区長会副会長	梶原　静雄
多久市分館長会長	渋谷　初實
多久市総務課長	古賀　正義
多久市商工観光課長	太郎浦明義
多久市教育次長	齊藤　安生
学識経験者（多久市議会副議長）	武富　健一
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
孔子の里芸能保存会常任幹事	森永　健之
多久市郷土研究会会長	大野　常蔵
多久市小・中学校校長会会長	荒谷　春男
多久市老人会事務局長	西山　和秀

歴代評議員名簿 （機関・団体名／氏名）

◆平成13年

佐城農業協同組合参事	武富　忠信
佐城農業協同組合青年部長	田中　秀幸
佐城農業協同組合女性部長	桃崎　和子
多久市商工会事務局長	江副　博保
多久市商工会青年部長	真崎　俊夫
多久市商工会女性部長	外尾　道子
多久市観光協会事務局長	松江　安幸
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	西山　英徳
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市地域婦人連絡協議会副会長	野口千鶴子
多久市青年団体代表	浦野　一彦
聖廟釈菜伶人楽長	泉　直三郎
多久市育友会連合会会長	川内丸信吾
多久町東の原区区長	鳥越　康夫
小城・多久地区労代表	廣川　秋仁
多久市社会福祉協議会事務局長	林田　辰久
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	三島　五郎
多久市分館長会長	円城寺　厳
多久市総務課長	最所　和泉
多久市農林商工課長	中原　博秋
多久市教育次長	武富　則彦
学識経験者（多久市議会副議長）	梅崎　茂弘
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
多久市小・中学校校長会会長	古田　寛
多久市郷土研究会会長	野中　史雄
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人会連合会事務局長	西山　和秀

◆平成14年

佐城農業協同組合多久営農事業所所長	高塚　謙治
佐城農業協同組合青年部長	田中　秀幸
佐城農業協同組合女性部長	桃崎　和子
多久市商工会事務局長	江副　博保
多久市商工会青年部長	真崎　俊夫
多久市商工会女性部長	池末　和子
多久市観光協会事務局長	松江　安幸
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	吉谷　重雄
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市地域婦人連絡協議会副会長	野口千鶴子
聖廟釈菜伶人楽長	舩津　忠伸
多久市育友会連合会代表	川内丸信吾
多久町東の原区区長	野中　寛鷹
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	廣川　秋仁
多久市社会福祉協議会事務局長	林田　辰久
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	三島　五郎
多久市分館長会会長	齊藤　安生
多久市総務課長	最所　和泉
多久市企画商工課長	藤田　和彦
多久市教育次長	松下　伸廣
学識経験者（多久市議会副議長）	梅崎　茂弘
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
多久市小・中学校校長会会長	土井征一郎
多久市郷土研究会代表	諸田　稔
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人会連合会事務局長	西山　和秀

◆平成11年

多久市農業協同組合参事	武富　忠信
多久市農業協同組合青年部長	田中　秀幸
多久市農業協同組合女性部長	桃崎　和子
多久市商工会事務局長	福地　弘男
多久市商工会青年部長	今沢　隆紹
多久市商工会婦人部長	外尾　道子
多久市観光協会副会長	桃崎　俊治
多久市観光協会事務局長	川浪　保信
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	野口　五男
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟常任理事	武藤　郁夫
多久市交通安全協会副会長	山田　三郎
多久市地域婦人連絡協議会副会長	小園　照子
多久市青年団体代表	宮崎啓二郎
聖廟釈菜伶人楽長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	川内丸信吾
多久町東の原区区長	西川　一徳
小城・多久地区労代表	田代　信一
多久市社会福祉協議会事務局長	桑原　正治
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	中川　守
多久市分館長会長	円城寺　厳
多久市総務課長	最所　和泉
多久市農林商工課長	中原　博秋
多久市教育次長	林田　辰久
学識経験者（多久市議会副議長）	梅崎　茂弘
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
孔子の里芸能保存会常任幹事	森永　健之
多久市郷土研究会会長	野中　史雄
多久市小・中学校校長会会長	岩井　重喜
多久市老人会事務局長	西山　和秀

◆平成12年

多久市農業協同組合参事	武富　忠信
多久市農業協同組合青年部長	田中　秀幸
多久市農業協同組合女性部長	桃崎　和子
多久市商工会事務局長	江副　博保
多久市商工会青年部長	今澤　隆紹
多久市商工会女性部長	外尾　道子
多久市観光協会事務局長	川浪　保信
多久市体育協会理事長	吉浦啓一郎
多久市文化連盟副会長	西山　英徳
多久市文化連盟常任理事	瀬戸口六良
多久市文化連盟常任理事	武藤　郁夫
多久市地域婦人連絡協議会副会長	野口千鶴子
多久市青年団体代表	宮崎啓二郎
聖廟釈菜伶人楽長	林田　辰久
多久市育友会連合会会長	川内丸信吾
多久町東の原区区長	西川　一徳
小城・多久地区労代表	太田　真
多久市社会福祉協議会事務局長	桑原　正治
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	中川　守
多久市分館長会長	円城寺　厳
多久市総務課長	最所　和泉
多久市農林商工課長	中原　博秋
多久市教育次長	武富　則彦
学識経験者（多久市議会副議長）	梅崎　茂弘
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　章
多久市小・中学校校長会会長	高木　正治
多久市郷土研究会会長	野中　史雄
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人会事務局長	西山　和秀

歴代評議員名簿 (機関・団体名／氏名)

◆平成17年

佐城農業協同組合多久営農事業所所長	宮丸　忠二
佐城農業協同組合青年部長	中山　和成
佐城農業協同組合女性副部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	江副　博保
多久市商工会青年部長	米満　正幸
多久市商工会女性部長	池末　和子
多久市観光協会事務局長	松江　安幸
多久市体育協会事務局長	安藤　豪敏
多久市文化連盟副会長	松下登美保
多久市文化連盟事務局長	眞子　　隆
多久町婦人会会長	山口　征子
多久聖廟伶人楽長・多久市総務部長	藤田　和彦
多久市PTA連合会会長	古賀　公彦
多久町東の原区区長	北川　　栄
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	古賀　三也
多久市社会福祉協議会事務局長	林田　辰久
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	永井　大善
多久市分館長会副会長	西川　一徳
多久市小・中学校校長会会長	市丸　悦子
多久市郷土研究会代表	諸田　　稔
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人クラブ連合会事務局長	江口　繁美
学識経験者（多久市議会副議長）	石井順二郎
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　　章
多久市まちづくり部長	田中　榮
多久市教育部長	市丸　正文

◆平成18年

佐城農業協同組合多久営農事業所所長	富岡　元昭
佐城農業協同組合青年部長	古賀　正和
佐城農業協同組合女性副部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	平野　健次
多久市商工会青年部長	米満　正幸
多久市商工会女性部長	池末　和子
多久市観光協会事務局長	松江　安幸
多久市体育協会事務局長	野中　安信
多久市文化連盟副会長	森永　健之
多久市文化連盟事務局長	眞子　　隆
多久町婦人会会長	山口　征子
多久聖廟伶人楽長・多久市教育部長	市丸　正文
多久市PTA連合会副会長	川田　祥生
多久町東の原区区長	北川　　栄
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	古賀　三也
多久市社会福祉協議会事務局長	兼行　　進
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	永井　大善
多久市分館長会副会長	西川　一徳
多久市小・中学校校長会会長	永渕　　操
多久市郷土研究会代表	諸田　　稔
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人クラブ連合会事務局長	江口　繁美
学識経験者（多久市議会副議長）	石井順二郎
学識経験者	尾形善次郎
学識経験者	細川　　章
多久市総務部長	柴田　藤男
多久市まちづくり部長	小園　敏則

◆平成15年

佐城農業協同組合多久営農事業所所長	高塚　謙治
佐城農業協同組合青年部長	田中　秀幸
佐城農業協同組合女性副部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	江副　博保
多久市商工会青年部長	小柳　亮治
多久市商工会女性部長	池末　和子
多久市観光協会事務局長	松江　安幸
多久市体育協会事務局長	安藤　豪敏
多久市文化連盟理事長	瀬戸口六良
多久市文化連盟副会長	吉谷　重雄
多久市地域婦人連絡協議会副会長	岡島　直子
多久聖廟伶人楽長	舩津　忠伸
多久市PTA連合会代表	川内丸信吾
多久町東の原区区長	野中　寛鷹
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	今泉　修一
多久市社会福祉協議会事務局長	林田　辰久
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	瀬戸口末次
多久市分館長会会長	齊藤　安生
多久市総務課長	藤田　和彦
多久市企画商工課長	牛島　剛勇
多久市教育次長	松下　伸廣
学識経験者（多久市議会副議長）	西山　英徳
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　　章
多久市小・中学校校長会会長	糸山　淑子
多久市郷土研究会代表	諸田　　稔
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人会連合会事務局長	江口　繁美

◆平成16年

佐城農業協同組合多久営農事業所所長	宮丸　忠二
佐城農業協同組合青年部長	田中　浩吉
佐城農業協同組合女性副部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	江副　博保
多久市商工会青年部長代行	米満　正幸
多久市商工会女性部長	池末　和子
多久市観光協会事務局長	松江　安幸
多久市体育協会事務局長	安藤　豪敏
多久市文化連盟理事長	瀬戸口六良
多久市文化連盟副会長	松下登美保
多久町婦人会会長	山口　征子
多久聖廟伶人楽長・多久市総務課長	藤田　和彦
多久市PTA連合会会長	古賀　公彦
多久町東の原区区長	野中　寛鷹
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	今泉　修一
多久市社会福祉協議会事務局長	林田　辰久
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	瀬戸口末次
多久市分館長会副会長	笠原　五男
多久市小・中学校校長会会長	糸山　淑子
多久市郷土研究会代表	諸田　　稔
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人クラブ連合会事務局長	江口　繁美
学識経験者（多久市議会副議長）	西山　英徳
学識経験者	尾形　善郎
学識経験者	細川　　章
多久市企画商工課長	石橋　慎一
多久市教育次長	松下　伸廣

歴代評議員名簿 （機関・団体名／氏名）

◆平成21年

JAさが佐城支部多久営農経済事業所所長	奥野　博文
JAさが佐城支部青年部多久地区代表	荒谷　武彦
JAさが佐城支部女性副部長	中村　公子
多久市商工会事務局長	平野　健次
多久市商工会青年部長	坂田　健一
多久市観光協会事務局長	前山　　充
多久市体育協会事務局長	野中　安信
多久市文化連盟副会長	森永　健之
多久市文化連盟事務局長	眞子　　隆
多久市地域婦人連絡協議会副会長	山口　征子
多久聖廟伶人楽長	森山　真塩
多久市PTA連合会常任理事	小野　浩司
多久町東の原区区長	山口　博三
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	香月　英裕
多久市社会福祉協議会事務局長	兼行　　進
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	徳永　裕幸
多久市分館長会副会長	野田　隆道
多久市小・中学校校長会会長	小池公仁隆
多久市郷土研究会代表	尾形善次郎
多久市交通安全協会副会長	大和主基雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
学識経験者（多久市郷土資料館館長）	西村　隆司
学識経験者	細川　　章
多久市総務部長	渕上　哲也
多久市まちづくり部長	木島　武彦
多久市教育部長	石橋　慎一

◆平成22年

JAさが佐城支部多久営農経済事業所所長	奥野　博文
JAさが佐城支部青年部多久地区代表	田中　達彦
JAさが佐城支部女性副部長	中村　公子
多久市商工会事務局長	平野　健次
多久市商工会青年部長	坂田　健一
多久市観光協会事務局長	前山　　充
多久市体育協会事務局長	野中　安信
多久市文化連盟副会長	森山　　孝
多久市文化連盟事務局長	眞子　　隆
多久市地域婦人連絡協議会副会長	山口　征子
多久聖廟伶人楽長	森山　真塩
多久市PTA連合会常任理事	野方　徳浩
多久町東の原区区長	山口　博三
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	藤瀬　英樹
多久市社会福祉協議会事務局長	北島　高美
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	桃﨑　昌敏
多久市分館長会副会長	尾形　邦彦
多久市小・中学校校長会会長	塚本　泰徳
多久市郷土研究会会長	尾形善次郎
多久市交通安全協会副会長	大和主基雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
学識経験者（多久市郷土資料館館長）	西村　隆司
学識経験者	細川　　章
多久市総務部長	渕上　哲也
多久市まちづくり部長	木島　武彦
多久市教育部長	石橋　慎一

◆平成19年

JAさが佐城支部多久営農経済事業所所長	高塚　謙治
JAさが佐城支部青年部長	古賀　正和
JAさが佐城支部女性副部長	中村　公子
多久市商工会事務局長	平野　健次
多久市商工会青年部長	米満　正幸
多久市商工会女性部長	池末　和子
多久市観光協会事務局長	土橋　哲也
多久市体育協会事務局長	野中　安信
多久市文化連盟副会長	森永　健之
多久市文化連盟事務局長	眞子　　隆
多久町婦人会会長	山口　征子
多久市PTA連合会副会長	川内野嘉昭
多久町東の原区区長	笠原　五男
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	古賀　三也
多久市社会福祉協議会事務局長	兼行　　進
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	徳永　裕幸
多久市分館長会副会長	小池　　栄
多久市小・中学校校長会会長	光山　悦章
多久市郷土研究会会長	副島　健三
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
学識経験者（多久市議会副議長）	牛島　和廣
学識経験者	尾形善次郎
学識経験者	細川　　章
多久市総務部長	樋口　和吉
多久市まちづくり部長	木島　武彦
多久市教育部長	石橋　慎一

◆平成20年

JAさが佐城支部多久営農経済事業所所長	奥野　博文
JAさが佐城支部青年部多久地区代表	荒谷　武彦
JAさが佐城支部女性副部長	中村　公子
多久市商工会事務局長	平野　健次
多久市商工会青年部長	渡島　幸司
多久市観光協会事務局長	土橋　哲也
多久市体育協会事務局長	野中　安信
多久市文化連盟副会長	森永　健之
多久市文化連盟事務局長	眞子　　隆
多久市地域婦人連絡協議会副会長	山口　征子
多久聖廟伶人楽長	森山　真塩
多久市PTA連合会副会長	川内野嘉昭
多久町東の原区区長	笠原　五男
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	香月　英裕
多久市社会福祉協議会事務局長	兼行　　進
多久市日中友好協会事務局長	尾形　節子
多久市区長会副会長	徳永　裕幸
多久市分館長会副会長	小池　　栄
多久市小・中学校校長会会長	小野　　茂
多久市郷土研究会会長	副島　健三
多久市交通安全協会副会長	松永　正義
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
学識経験者（多久市議会副議長）	牛島　和廣
学識経験者（多久市郷土資料館館長）	西村　隆司
学識経験者	細川　　章
多久市総務部長	渕上　哲也
多久市まちづくり部長	木島　武彦
多久市教育部長	石橋　慎一

歴代評議員名簿 (機関・団体名／氏名)

◆平成27年

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	渕上　哲也
多久町懇話会代表	宝蔵寺　博
多久市郷土資料館館長	西村　隆司
雅楽伶人楽長	諸江　啓二

◆平成28年

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	渕上　哲也
多久町懇話会代表	宝蔵寺　博
学識経験者	西村　隆司
雅楽伶人楽長	上瀧幾久生
多久市郷土資料館館長	藤井　伸幸

◆平成29年

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	渕上　哲也
多久町懇話会代表	宝蔵寺　博
学識経験者	西村　隆司
雅楽伶人楽長	上瀧幾久生
多久市郷土資料館館長	藤井　伸幸

◆平成30年

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	荒瀬　弘之
多久町懇話会代表	宝蔵寺　博
学識経験者	西村　隆司
雅楽伶人楽長	川浪　正則
多久市郷土資料館館長	藤井　伸幸

◆令和元年(平成31年)

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	荒瀬　弘之
多久町懇話会代表	宝蔵寺　博
学識経験者	西村　隆司
雅楽伶人楽長	川浪　正則
多久市郷土資料館館長	藤井　伸幸

◆令和２年

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	荒瀬　弘之
多久町懇話会代表	宝蔵寺　博
学識経験者	西村　隆司
雅楽伶人楽長	陣内　紀朗
多久市郷土資料館館長	藤井　伸幸

◆平成23年

JAさが佐城支部多久営農経済事業所所長	奥野　博文
JAさが佐城支部青年部多久地区代表	樋口　誠
JAさが佐城多久地区女性部部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	平野　健次
多久市商工会青年部長	坂田　健一
多久市観光協会事務局長	前山　充
多久市体育協会事務局長	野中　安信
多久市文化連盟副会長	森山　孝
多久市文化連盟事務局長	眞子　隆
多久市地域婦人連絡協議会副会長	山口　征子
雅楽伶人楽長	森山　真塩
多久市PTA連合会副会長	野方　徳浩
多久町東の原区区長	北川　栄
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	藤瀬　英樹
多久市社会福祉協議会事務局長	北島　高美
多久市日中友好協会会長	尾形　節子
多久市区長会副会長	野方　正義
多久市分館長会副会長	尾形　正利
多久市小・中学校長会会長	白木　直人
多久市郷土研究会代表	尾形善次郎
多久市交通安全協会副会長	大和主基雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
学識経験者（多久市郷土資料館館長）	西村　隆司
学識経験者	細川　章
多久市教育総務課長	石橋　慎一

◆平成24年

JAさが佐城支部多久営農経済事業所所長	奥野　博文
JAさが佐城支部青年部多久地区代表	樋口　誠
JAさが佐城多久地区女性部部長	南里　成子
多久市商工会事務局長	三塩　博文
多久市商工会青年部長	坂田　健一
多久市観光協会事務局長	大嶋　哲也
多久市体育協会事務局長	坂口　博
多久市文化連盟副会長	森山　孝
多久市文化連盟事務局長	眞子　隆
多久市地域婦人連絡協議会副会長	金子　純子
雅楽伶人楽長	森山　真塩
多久市PTA連合会副会長	野方　徳浩
多久町東の原区区長	北川　栄
連合佐賀多久小城地域協議会事務局長	藤瀬　英樹
多久市社会福祉協議会事務局長	北島　高美
多久市日中友好協会会長	土橋　哲也
多久市区長会副会長	塚元　秀利
多久市分館長会副会長	尾形　正利
多久市小・中学校長会会長	白木　直人
多久市郷土研究会代表	尾形善次郎
多久市交通安全協会副会長	大和主基雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
学識経験者（多久市郷土資料館館長）	西村　隆司
学識経験者	細川　章
多久市教育総務課長	石橋　慎一

◆平成25年

佐賀県議会議員	福島　光洋
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	福島　一成
多久市副市長	渕上　哲也
多久町懇話会代表	陣内　謙三
多久市郷土資料館館長	西村　隆司
雅楽伶人楽長	森山　真塩

◆平成26年

佐賀県議会議員	野田　勝人
多久市議会議長	山本　茂雄
多久市老人クラブ連合会事務局長	古賀　信康
多久市副市長	渕上　哲也
多久町懇話会代表	陣内　謙三
多久市郷土資料館館長	西村　隆司
雅楽伶人楽長	山下　浩伸

歴代職員名簿 （職名・氏名）

◆平成28年度

常務理事	服部　政昭
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	亀川　将平
音楽講師	趙　勇
管理人	吉松　幸子

◆平成29年度

常務理事	服部　政昭
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	亀川　将平
音楽講師	趙　勇
管理人	吉松　幸子

◆平成30年度

常務理事	服部　政昭
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	亀川　将平
音楽講師	趙　勇
管理人	吉松　幸子

◆令和元年（平成31年）度

常務理事	服部　政昭
事務局長	亀川　将平
事務職員	陣内佐由里
事務職員	諏山　匡矩
音楽講師	趙　勇
管理人	吉松　幸子

◆令和２年度

常務理事	服部　政昭
事務局長	亀川　将平
事務職員	陣内佐由里
事務職員	諏山　匡矩
音楽講師	趙　勇
管理人	原田　美幸

◆平成19年度

常務理事	林口　彰
事務職員	田島　恭子
事務職員	陣内佐由里
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成20年度

常務理事	林口　彰
事務職員	田島　恭子
事務職員	陣内佐由里
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成21年度

常務理事	林口　彰
事務職員	田島　恭子
事務職員	陣内佐由里
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成22年度

常務理事	林口　彰
事務職員	田島　恭子
事務職員	陣内佐由里
音楽講師	趙　勇
臨時職員	緒方　明子
管理人	久野　好子

◆平成23年度

常務理事	梶原　栄三
事務職員	田島　恭子
事務職員	陣内佐由里
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成24年度

常務理事	平山　豊
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	奥野　泰広
音楽講師	趙　勇
臨時職員	亀川　将平
管理人	久野　好子

◆平成25年度

常務理事	本島　和典
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	亀川　将平
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成26年度

常務理事	本島　和典
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	亀川　将平
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成27年度

常務理事	吉浦啓一郎
事務局長	江口　正晃
事務職員	陣内佐由里
事務職員	亀川　将平
音楽講師	趙　勇
管理人	吉松　幸子

◆平成10年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成11年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成12年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成13年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成14年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成15年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成16年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
管理人	古賀　英男

◆平成17年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
管理人	久野　好子

◆平成18年度

常務理事	林口　彰
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
臨時職員	吉浦　敏子
管理人	久野　好子

◆平成元年度

常務理事	野方　辰美
事務職員	小野　明美

◆平成２年度

常務理事	野方　辰美
事務職員	小野　明美

◆平成３年度

常務理事	野方　辰美
事務局長	永石　英彦
事務局次長	佐藤　秋雄
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
管理人	古賀　英男

◆平成４年度

常務理事	野方　辰美
事務局長	永石　英彦
事務局次長	佐藤　秋雄
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成５年度

常務理事	野方　辰美
事務局長	永石　英彦
事務局次長	村山　亮
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成６年度

常務理事	野方　辰美
事務局長	永石　英彦
事務局次長	村山　亮
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成７年度

常務理事	野方　辰美
事務局長	永石　英彦
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成８年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
管理人	古賀　英男

◆平成９年度

常務理事	林口　彰
事務職員	小野　明美
事務職員	田島　恭子
音楽講師	趙　勇
音楽講師	江　舟
臨時職員	真島　啓子
管理人	古賀　英男

あとがき

元禄十二年(一六九九)に学校が創設されてから三百三十二年が経ちました。明治になり領主の庇護が無くなり、その後の管理は多久村を中心として、学校で学んだ有志の方々が保存会や管理組合を設けて守り続け、昭和二十九年の町村合併時に多久市へ移管されています。

昭和六十二年、市内各団体により「聖廟周辺整備計画策定協議会」が設けられ、聖廟の管理運営を財団法人に移管する事が提言されました。昭和六十三年に、「ふるさと創生一億円事業」が国の事業として始まり、平成元年に「財団法人設立準備委員会」が設置されて、ふるさと創生事業の一億円の一部と曲渕喜和太氏からの浄財二億円を基本財産として、平成二年に「財団法人孔子の里」が設立され、平成二十五年には財団法人から公益財団法人に移行をしました。

郷土の歴史を学んでいる折々に記録の大切さを痛感します。記録の中には歳月を超えて蘇ってくる人々の熱い思いと労苦を読み取る事があります。この小誌がそのような一助となることを願っています。

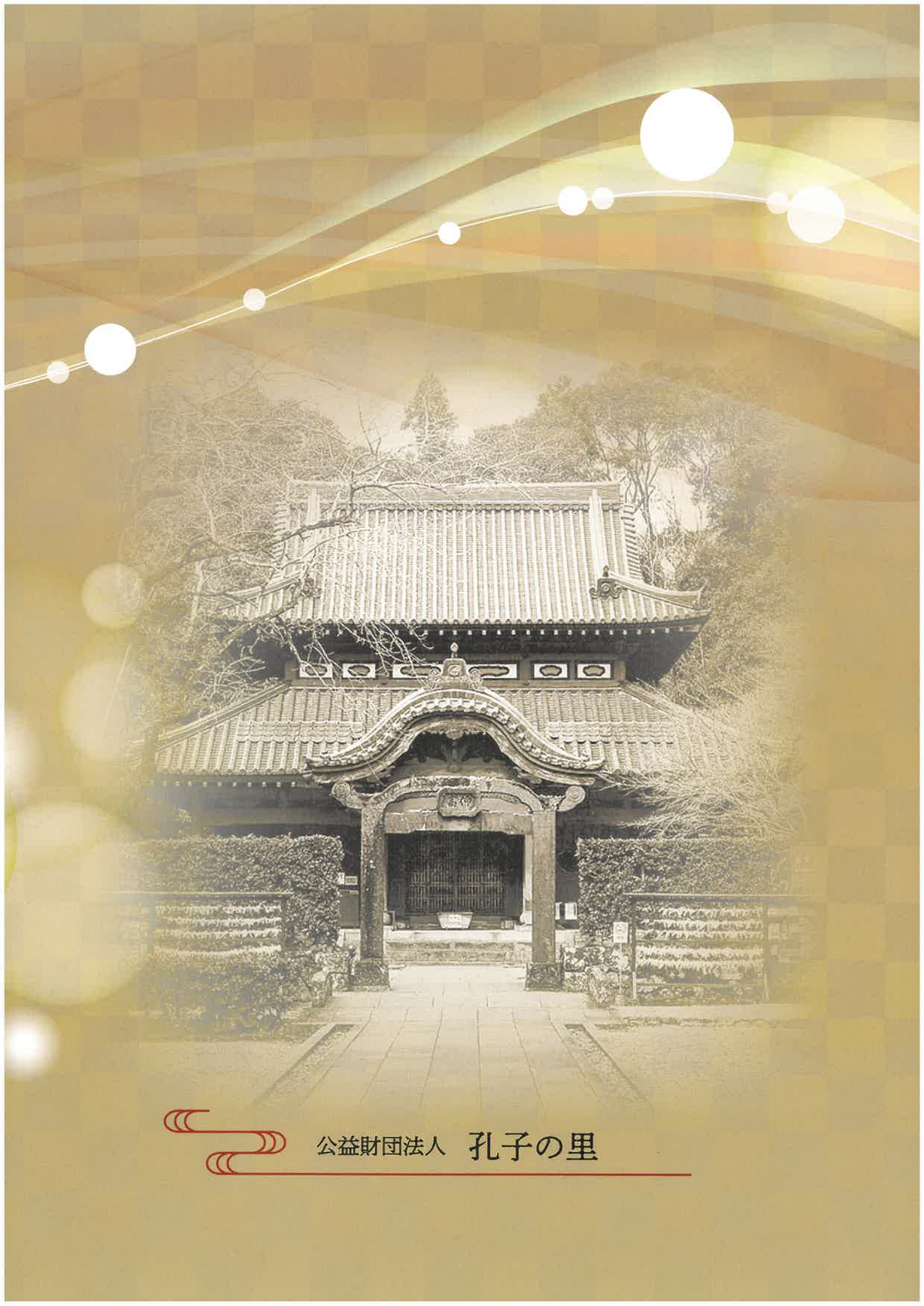
最後になりましたが、この記念誌を編纂するにあたり、「石川忠久先生の即時詩」を特集させていただきました。「全国ふるさと漢詩コンテスト」授賞式の際に即興の詩をお願いして二十三年間。二十三首の漢詩が集積されました。その翻刻、書き下し、解題は、公益財団法人斯文会常務理事兼事務局長の平正路氏と青山詩會の中山正道氏にご協力をいただきました。石川忠久先生と平正路氏、中山正道氏のご厚意に深く感謝を申し上げます。

また、快く寄稿を引き受けていただきました皆様方に心よりの御礼を申し上げます。

令和三年三月

公益財団法人孔子の里　常務理事
服部政昭

発行日　令和三年三月三十一日
発行者　理事長　横尾俊彦
発行所　公益財団法人　孔子の里
所在地　多久市多久町1843－3
公益財団法人　孔子の里
☎0952－75－5112
協力　公益財団法人斯文会
常務理事・事務局長　平　正路
青山詩會　会員　中山正道
印刷　株式会社　音成印刷



公益財団法人　孔子の里